

# 仲間の支えと共に勝ち取った 鳥人間コンテスト 2 年連続優勝の快挙！



「第41回鳥人間コンテスト2018」の滑空機部門に津田沼航空研究会がディフェンディングチャンピオンとして出場し、昨年に続き2連覇を達成しました。滑空距離の記録も、2017年の440.4mを上回り、446.4mで再び学生新記録を樹立しました。

2018年大会は、台風が接近中という怪しい雲行きの中で始まりました。台風の影響が現れる前に滑空部門を終わらせるようにスケジュール変更が行われ、津田沼航空研究会のテイクオフの時間が3時間ほど早められました。琵琶湖の風は、例年午後になると滑空が難しい風になるので、スケジュール変更により2017年大会のテイクオフ時間とほぼ同じ午前中の時間となったことは、津田沼航空研究会にとって幸運でした。

今年の機体名は「Gardenia（クチナシの意味）」です。機体コンセプトが「洗練された美しい機体」なので、花言葉に「洗練」という意味を持つガルデニアを機体名にしました。パイロットの訓練もテストフライトによる機体チェックも入念に行いました。そして大勢の仲間が支えてくれました。その結果が、大会連覇につながったのだと考えています。既に2019年大会に向けて機体製作に入っています。是非、今年も応援をお願い致します。

スプリング

**SPRING No.112**

(日本大学生産工学部だより)

平成31年3月20日発行

編集・発行 日本大学生産工学部 広報委員会

本誌に関する照会その他は下記へお願いします。

〒275-8575 千葉県習志野市泉町1-2-1 日本大学生産工学部 庶務課

電話 047-474-2201 FAX 047-479-2432

E-mail: cit.info.shomu@nihon-u.ac.jp

http://www.cit.nihon-u.ac.jp/

# SPRING

No.  
112

■学部長メッセージ

■特集記事①「新・生産実習」

■特集記事② 学生FDの新たな一歩

■2018年の就職状況と2019年の展望

■就職活動体験記

■学科・系ニュース

■連載／卒業生インタビュー

小松マテレー株式会社 理事 生産・技術開発本部長補佐 兼 資材購買部長

茶谷 秀樹氏

■平成30年度表彰学生

■CAMPUS NEWS

■2019年度行事予定





## Contents

- 学部長メッセージ……………2～3
- 特集記事①「新・生産実習」……………4～6
- 特集記事② 学生FDの新たな一歩……………7
- 2018年の就職状況と2019年の展望…8～9
- 就職活動体験記……………10～12
- 学科・系ニュース……………13～17
- 連載／卒業生インタビュー……………18～19  
小松マテール株式会社 理事 生産・技術開発本部長補佐 兼  
資材購買部長 茶谷 秀樹氏
- 平成30年度表彰学生……………20～21
- CAMPUS NEWS ……………22
- 2019年度行事予定……………23



表紙：鳥人間コンテストで昨年に続き2年連続で優勝を果した津田沼航空研究会。

# 卒業生に贈る お祝いメッセージ

## 学部長メッセージ

### 落合 実

学部長  
日本大学生産工学部



平成30年度学部卒業生ならびに大学院修了生の皆さま、卒業・修了誠におめでとうございます。ご家族の皆さまのお慶びもひとしおのことと心よりお慶び申し上げます。

### 皆さんが活躍する社会

現代社会ではITをはじめとしたデジタル技術が急速に進み、様々な分野の情報が全地球的規模で得られ、それらの情報が人々の生活や文化そして経済活動に変革をもたらしています。特に経済活動では「ものづくり」をはじめとした国内外の産業構造が一国対一国の関係からグローバルな関係に変遷しています。

一方、我が国では少子高齢化と生産年齢人口の減少が今後、更に加速することから、経済活動、特に産業界の構造改革が急務となっています。国は産業界に対して再興施策として「第4次産業革命の実現」をめざし、IoT・ビッグデータ・AI・ロボットなどをキーワードとした新たな市場創出を進めています。そして科学技術基本計画では「超スマート社会」(Society 5.0)の実現を目指しています。このようなグローバル化をはじめとした多様化する社会の変化に対応できる人材、技術者が求められています。

グローバル化に対応できる人材とは、全世界・地球的な視野で社会、経済、技術、環境そして文化などについて自身の専門性を含めて考えることができ、加えてそれらを議論できる人と考えます。当然、自分が生活する地域をはじめとした日本の文化や歴史の理解も重要です。

本学を卒業する皆さんにはグローバル化、多様化する社会に対応できる技術者としての素養が備わっておりますので、実社会でそれらを醸成してください。

### キャンパスライフ

皆さんは学部あるいは大学院でのキャンパスライフは有意義だったでしょうか。初めて登校した日の開校式から卒業・修了まで、様々な経験をしたことと思います。卒業・修了した今、大学で学んだこと、経験したことを振り返って認識してみましょう。

皆さんが努力して学んだ生産工学部では他大学・他学部には無い特徴あるカリキュラムの基に勉学したことを認識していただきたい。その特徴は経営・管理能力を備えた技術者を育成するという教育理念の下、技術者として必要な教養・基礎そして専門の知識に加えて、生産実習や経営管理、技術者倫理などの生産工学系科目を設置していること。そして実学を重視した実験や実習・演習などの実技科目を多く組み入れたカリキュラムであることです。この実技科目では課題に対して少人数のグループで取り組み、学生同士そして教員と学生のコミュニケーション等を通して専門知識と社会人としての基礎力を養っています。これらに加えて学科横断型プログラム(Glo-BE)やJABEE認定プログラム(電気電子工学科、土木工学科、応用分子化学科、数情報工学科に設置)も本学部の特徴であり、多くの学生が多様な学びを経験したことと思います。

卒業生の皆さんにはこれら特徴あるカリキュラムを通して「経営・管理能力を備えた技術者」としての素養が身につけていることを意識すると共に、本学を卒業、修了した誇りと自信を持って社会で羽ばたいてください。

### 創立130周年の日本大学、

#### 日本で唯一の「生産工学部」

日本大学は明治22(1889)年に創立された日本法律学校(現・法学部)を前身とし、明治36(1903)年に日本大学に改称しています。そして初代司法大臣を務めた山田顕義伯爵を学祖と位置付けています。教育の理念は「自主創造」であり、「自ら学ぶ」、「自ら考える」そして「自ら道をひらく」ことです。

生産工学部の前身は昭和27(1952)年に創設された工学部(現・理工学部)工業経営学科です。その後、昭和40(1965)年；第一工学部、昭和41(1966)年；生産工学部に改称して、現在、学部9学科、大学院7専攻、学生数約6300名の規模に発展しています。創設以来、経営・管理能力を備えた技術者の育成を教育の理念とし、産業界に最も近い工学系の学部として産業界の発展に大きく貢献しています。卒業生の活躍で生産工学部が支えられています。生産工学部は日本において唯一、「生産」を冠した学部名称であります。

### 日本大学のスケールメリット：「絆」

卒業、修了後は、日本大学のスケールメリットを大いに活用してください。

日本大学は130年の歴史と約116万人の校友、そして生産工学部は67年の歴史と約8万人の校友がいます。

日本大学の校友は卒業した皆さんを新しい社会人・校友の仲間として歓迎していますので、今後は多くの校友とのつながり、「絆」をもって、協同・協働で社会に貢献していただきたいと存じます。また、卒業生にとって生産工学部そして学科・研究室は母校ですので、いつでも訪ねて来てください。在学生に実社会の楽しさなどを語っていただければ幸いです。

日本大学の卒業生・修了生としての誇りと自信を持って世界に羽ばたき活躍されることを心より祈念して「卒業生に贈るメッセージ」といたします。

卒業そして修了おめでとうございます。



# 新・生産実習

## 社会の変化にたくましく、しなやかに対応できるエンジニアの育成

学部創設当初から必修科目として運営される『生産実習』は、近年、社会的に広がりを見せるインターンシップの先駆的存在です。60 余年にわたり卒業生諸兄姉に支えられながら毎年 1500 名もの履修生に貴重な実践・実学の機会を提供してきました。

### 授業の目的とねらい

教養科目、基盤科目、生産工学系科目、専門教育科目からなるカリキュラムの全体と連携し、企業や公的機関等における実習経験を通じて幅広い知識・技能と実践技術との関係を学び取り、主体性と創造性に豊かな実践力ある工学技術者を育成する。

### 学習到達目標

①は DP1・3 に対応、  
②は DP5・8 に対応

①実習経験を通して社会人の立場と技術者の役割を認識し、幅広い知識や技能を実践しながら技術者としての倫理観を醸成することができる。

②自身の傾向や社会のニーズを捉えて適切な目標を設定し、日々の経験に挑戦と省察を重ねて技術者としての資質を自ら高めることができる。

### アウトカムズ

授業を通じて習得すべき能力

倫理的視点に立ち、判断する力

論理的・批判的に捉え、考察する力

幅広い知識や技能を統合して実践する力

自ら目標を設定し、点検・修正する力

自己を客観的かつ多面的に評価する力

経験を振り返り、気づきを学ぶにつなげる力

主体的に考え、取り組む力

図-1 新・生産実習の目的・目標・アウトカムズ

本学部では、平成 29 年度に制定された「日本大学教育憲章」に則り、ディプロマポリシー（学位授与の方針）（以下、DP）に沿ったカリキュラム改訂の一環として、キャリアデザイン教育とエンジニアリングデザイン教育を 2 軸とした生産工学系科目の体系的改善に取り組んできました。いよいよ 4 月に初年度を迎える新しい生産実習・

同(S)（以下、新・生産実習）は、それら 2 軸の結び目であり、DP に対応した学習到達目標①・②の達成に向け、ジェネリックスキル（汎用的な業務遂行能力）とテクニカルスキル（専門的な業務遂行能力）の両視点からアウトカムズを重視します。（図-1）

## 産官学連携による『共育型インターンシップ』の充実

新・生産実習における教育改善では、共通教材の整備・運用による「質保証」と継続的改善の土台構築を実現しました。そのため、アウトカムズを積み重ねて段階的

に目標を達成するために ①概要説明会、②事前学習（講義・講習・ゼミ）、③実習、④事後学習（講義・講習・ゼミ）、⑤成果発表会を整備しています。（図-2）



図-2 新・生産実習

さらに、新・生産実習においては、これまでの実績とノウハウに基づき開発した教材・課題集「生産実習 NOTES」と、実習先・実習生・大学間の情報共有から相互の気づきを促す Web データベース「生産実習 SYSTEM」を導入し、『共育型インターンシップ』としての学習効果向上を図ります。

## 経験を学びに変え、生涯学び続ける力

### 生産実習 NOTES

生産実習 NOTES は、実習生一人ひとりが実習を通じて「経験を学びに変える力」、技術者として「生涯学び続ける力」を養うために本学部が独自開発した生産実習のためのノートです。このノートは、実習生が『自律的な学習者』へと変容する 7 つの要素で構成され、生産実習 SYSTEM を介して個々の成果を実習先とも共有します。（図-3）

### 生産実習 SYSTEM

生産実習 SYSTEM は、従来の紙ベースによる情報管理・共有の課題を解決し、産官学連携による人財育成を支援する Web データベースです。生産実習 NOTES と連携して実習生の目標と成果、評価等を共有し、実習前後のジェネリックスキルを多面的かつ定量的に把握することで、成長の軌跡から将来展望、アクションプランにつなげます。

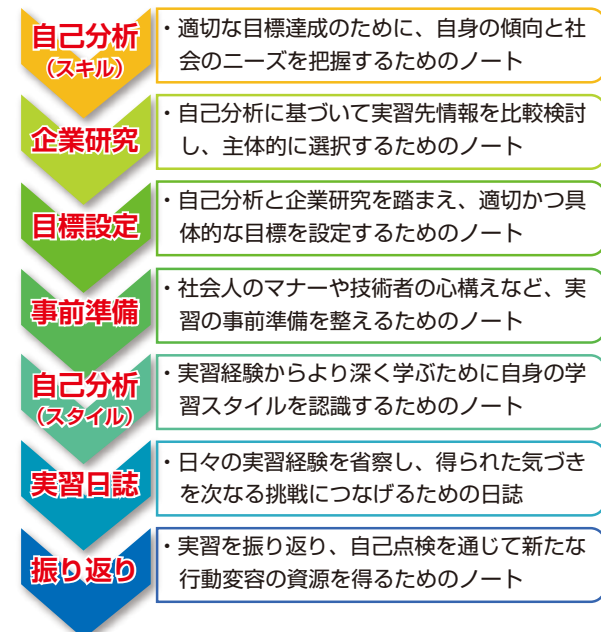


図-3 生産実習 NOTES の構成

本学部の教育プログラムは、今後も社会のトレンドやニーズに「たくましく、しなやかに」に対応するため、継続的改善を重ねます。教職員一同、卒業生諸兄姉のご活躍を祈念するとともに、新・生産実習をはじめ、引き続き後進の指導・育成にご協力を賜りたく何卒お願い致します。

※お勤め先で後輩たちの生産実習をお受け入れいただける場合は、研究室または事務室までご一報ください！



# 新・生産実習

## 生産実習で得たもの

住友重機械工業株式会社  
エネルギー環境事業部  
2018 年機械工学科卒

## 佐藤 絵里奈

私は、製図や CAD の授業を通して、設計業務に関心を持ったため、自動車メーカーの設計を経験できる設計事務所を生産実習先を選びました。実習内容は 3D-CAD を用いたモデリング演習と、グループワークによる新製品の創出と社員の方々へのプレゼンテーションでした。実習先では、はじめに安全講習とマナー講座がありました。正しい挨拶の仕方やメールの書き方など、就職活動や社会人に必要なビジネスマナーを学びました。



生産実習を通して学んだことは、自主性と工程管理です。社会人となった今でも工程や時間の管理に悩むことが多いのですが、この壁に初めてぶつかったのが生産実習のときでした。いつまでに何をしなければならぬのか、目標を達成するために解決しないと



いけない課題は何なのか、自分はチームのために何をすべきなのか、これまで勉強や課題に対して一人で時間をかけて行っていた私にとっては非常に難しいことでした。他の実習生からもなかなか意見が出ず、時間を無駄にしている感覚があったことを覚えています。

私は現在、火力発電プラントの構造設計業務を行っています。生産実習先で関わった分野とは別分野ですが、CAD を用いて設計すること、工程を考えて業務に取り組まないといけないことは生産実習で経験したことと同じで、生産実習で経験したことが生かされていることを実感しています。また、他大学の学生と関わることも大切なことだと思います。生産実習では様々な大学、学部、学科の学生の考えや意見に触れることができます。多様性はこれからの社会にとって重要なキーワードの一つです。生産実習は社会人として必要なことがたくさん学べる貴重な授業です。

## 多様な社会人とのふれあいで培った経験を活かす

創生デザイン学科 4 年

## 佐藤 光将

生産実習を通じて出会ったさまざまな社会人との交流の中で社会人として求められる素養がどのようなものであるか身をもって体験でき、それを就職活動の中で活かしたことが成功要因だったと思います。



生産実習は 3 箇所の異なる事業所を巡りました。ひとつは個人の小規模な設計事務所でした。所長以下数名の設計事務所なのでアットホームな雰囲気である反面、仕事に対するきめの細かい厳しさが随所に見られる職場環境でした。従業員以外の関係者の出入りも多く、その対応のなかで就職活動に関する考え方や取り組み方を教えてもらう機会も一度や二度ではありませんでした。

2 つめは比較的大きな設計事務所、そこでは業務の合間に担当の従業員からポートフォリオの作り方についてのアドバイスをたくさんいただきました。採用する側の目線でポートフォリオを見ることの重要性を学べたと思います。

最後はランドスケープデザインのコンサルティング会社でした。担当の従業員に随伴して、さまざまな地域でおこなわれる講演会に同行し、そこでのコンサルティング業務の様子を見聞きすることができました。特に印象的だったのは、話の進め方がいわゆる〈起承転結〉ではなく、〈起結〉・〈承転〉だったことです。要するに〈なんであったか〉を伝え、相手からの要求に応じてその背景や理由などについて詳細の度合いを変えながら話すという流れです。限られた時間で話し方の極意を見た気がします。

これら 3 つの事業所での経験はそれぞれ違う人、違う場面でのものですが、いざ就職活動をはじめると、それぞれの場所では出会った人々から教わった考え方が思い起こされてとても役に立ちました。事務所の所長としての立場、その役割、人事担当者の目線、クライアントが知りたいこと、またそれに対してダイレクトに情報を伝えるプレゼンテーションの方法など、多くの人たちと過ごした経験がひとつに合わさって就職活動を乗り越えることができたと思います。

## 生産実習に期待すること

環境安全工学科 2 年

## 飯塚 隆斗

生産実習に期待することは自分の将来進みたい就職先と同じ職種の仕事学ぶことができる点だと考えています。今現在で私が大学で学んできたことをどの程度活かすことができるのか、何が足りていないのかをはっきりと認識できることは、これからの学習意欲の更なる向上につながるほかにも、就職活動においての足掛かりとして非常に重要だと考えていますので、真剣に取り組みたいと思っています。また生産実習を経験した先輩方の報告会に参加させていただき、自分の知りたかった環境に関する仕事内容を知れ、仕事といえばデスクワークというイメージが多かったのですが、実際は現地調査やグループディスカッションが多かったことに驚きました。



他にもその職種、その会社に就職した企業の方々から直々に仕事を教えていただくというのは生産実習において大きな収穫になると確信しています。取得していた方がいい資格や、実務を行う際に必要な知識を伺えるほかにも、その仕事を通してのやりがいや苦悩といった実際に仕事をしていないと分からないことを知ることができるのは大きいと感じています。これは実際に就職してからのギャップを減らすことができ、仕事に対するモチベーションの維持につながると考えるためです。またこれらの片鱗に触れることで私自身が成長できると考えています。しかしながら、今までのことは主体的に教えてくださる担当の方に尋ねなければ知りえないことが非常に多いと感じています。

学生が自身のみで業務について完璧に理解することは不可能だと思いますので、積極的に現場の声を伺うことを努めるとともに、コミュニケーション能力という社会に出た際に必要不可欠なスキルを磨くことにも力を入れたいと考えています。

以上のことを生産実習に期待するとともに、いずれ訪れる私の就職活動の大きな糧にできるように努めたいと思っています。

# 学生 FD は新たな一步を踏み出します！

学生 FD(Faculty Development) をご存知ですか？  
学生 FD とは、教員、職員が組織的に行っていた FD (授業、教育改善活動) に学生が参画する取り組みです。平成 30 年度はリーダーの坂本裕菜 (応用分子化学科 4 年)、サブリーダーの稲邊奨太 (土木工学科 3 年)、川上礼吾 (応用分子化学科 2 年) を中心に「学生、教員、職員が『三位一体』 となって生産工学部の学習環境改善に取り組む」をモットーとし、月 1 回のミーティングをベースに活動しています。



平成 30 年度は 6 月に 1 年生を対象とし、「他学科の専門分野や津田沼校舎について知ることを通し、生産工学部に興味を持ってもらい、これからの学生生活で当事者意識をもって学習してもらうこと」を目的に掲げて、しゃべり場\*1を行いました。各

学科の特徴といえる設備や機材などの写真を用い、実際に目で見て知ること、参加者に多くの発見や気づきを感じてもらったのでできたイベントとなりました。

8 月には京都で開催された学生 FD サミット\*2に参加しました。他大学の方々と知り合うことや他大学の活動について知ることのできるとも貴重な機会となりました。また、11 月の桜泉祭に参加し、実際にしゃべり場で作成した模造紙や学生 FD に関するポスターなどを教室に展示しての活動報告やミニしゃべり場を

行うとともに、生の学生の声を聞くべく教室を飛び出し、「日本大学学修満足度向上調査」の一部の内容に関する街頭アンケートを行いました。

さらに、12 月には芸術学部で開催された CHAmmiT2018\*3に参加し、日本大学教育憲章とともに自分の学びルートを考えるとても貴重な機会となりました。また、生産工学部からはコアスタッフとして田澤翔生 (応用分子化学科 2 年)、スタッフとして川上礼吾 (応用分子化学科 2 年) が企画段階から携わり、他 5 名もファシリテーターとして当日の運営に携わりました。

現在、生産工学部学生 FD は学生スタッフ総勢 23 名となり活動の幅も広がりました。これから更に組織改革を行い、来年度からより一層踏み込んだ活動を行っていく予定です。少しでも興味を持った方は、今後のイベントに参加してみてください！

\*1:「しゃべり場」とは、気軽な雰囲気のもと各々の立場でのびのびと討論する場。

\*2:「学生 FD サミット」とは、学生 FD 活動を行っている日本全国の大学の学生や教職員が一堂に会して学生 FD について話し合うイベント。

\*3:「日本大学 学生 FD CHAmmiT」とは、日本大学の全学部の学生や教職員が一堂に会して大学全体の学習環境について話し合うイベント。





# 特集 2018年の就職状況と2019年の展望

## 1 2018年の就職状況

### 1. 2018年の内定状況

2018年度の採用に関するスケジュールは、2017年度と同様に3年連続で3月1日に広報活動開始、6月1日に採用選考活動開始でした。そして就職活動のスケジュールはようやく落ち着きを見せ始めたと言えます。しかし採用ルールに関しての重大ニュースとして10月に伝えられたのが、日本経済団体連合会（以下 経団連）は現在大学2年生である2021年3月卒業の新卒者を対象とする就職・採用活動のルールを策定しないことを正式に決めたというものでした。1953年に始まった「就職協定」以来の就職・採用活動のルールはいったん廃止となり、政府主導で新たな方式作りを行うというもので、政府は2021年春入社については現行ルールを維持する方針とのことです。

経団連が行った2018年度新卒採用に関するアンケート調査結果（2018年11月22日付、経団連企業会員の597社が回答）によると、2019年4月入社対象の採用計画数に届かない企業の割合が前年度よりも2.3%増加し約33%になったことが報告されています。企業側からすると採用難の状況が一層進んだものと考えられます。一方、学生側にとっては売り手市場が続いており、就職を目指す学生にとっては有利な状況で就職活動が展開できたのではないかと考えられます。

文部科学省と厚生労働省が2018年11月に発表した全国の大卒理系の就職内定率は79.2%(2018年10月1日調査時点)でした。昨年度の同月(2017年10月1日調査時点)の全国の大卒理系の内定率よりも0.6ポイントの上昇となっています。生産工学部の2018年度の月別内定率は図1に示すように2018年12月1日時点で93.5%です。昨年の12月1日での生産工学部の内定率が92.7%なので内定率は若干の増加に留まっています。2018年7月からの内定率(7月から10月までは正確には内々定率)の傾向を見ると、昨年は7月から9月の伸びが9月以降の伸びよりも大きくなっていましたが、本年は6月1日の内定率が学部平均55.2%で昨年同日より12.9ポイント上昇しています。このため夏休み以降も一定の割合で内定率が増加する傾向となっています。これは企業の採用意欲が非常に高いため、新卒者に対する企業の早期の囲い込みが昨年より顕著となっているためと考えられます。

### 2. 2018年度の就職活動の特徴

2018年度の就職活動の特徴の一つに、1day インターンシップを含む短期間のインターンシップへの参加の増加が挙げられます。これは2017年夏以降、経団連はそれまで5日以上としていた期間を撤廃したことから、昨年・本年とその開催企業数および開催数を大幅に伸ばしてきました。イ

ンターンシップは、会社や官公庁・公社・団体などの仕事の内容を理解することを主として開催されます。大学1年生からの参加も可能となっているインターンシップも多く見られます。このような低学年を対象としたインターンシップは基本的には採用活動の一環ではなく、あくまで会社や官庁などの紹介・説明の機会として実施されていま

す。しかし大学3年生にとっては、夏休み期間や採用活動が始まる直前の秋から冬にかけての期間におけるインターンシップは、採用活動の一環として捉えて活動しているのが現状です。このようなインターンシップは、経団連に所属する企業597社の内88.2%が広報活動開始日前に実施しているとのことです。また参加学生は72.8%で前年に比べ微増との報告(「2018年度マイナビ大学生インターンシップ調査」2018年11月より引用)もあります。

「キャリアス就活2019 学生モニター特別調査レポート」(2018年3月)では、参加時期は前年の調査に引き続き2月が最も多いとのことです。ただし割合は下がり、代わりに8月が増えるなど、前倒しの傾向が見て取れます。8月、9月を合わせるとその数は3割強に上り、大学の長期休み中の参加が依然メインであることがわかります。また参加日数は1日が3割強で最も多く、半日と合わせると56.1%になり、1日以内のショートプログラムへの参加が今年も半数強を占めているとのことです。プログラムの内容は「講義・座学」「グループワーク」が80%近くに上り、大半のインターンシップで行われている内容となりますが、「仕事体験」が約30%、「実務」は5%強と、かなり限られる傾向のようです。しかし、生産工学部では3年生の8・9月を中心に2週間から1か月の期間を費やして生産実習を実施しています。生産実習は必修科目であり50年以上にわたり実施しています。この生産実習はまさに就業体験であり、本来のインターンシップです。本学の学生は全員、生産実習を受講して希望職種の就業体験ができるため、卒業後も就職先への順応力が高く、離職率の低い点が社会から高い評価を受けています。

## 2 2019年度の展望

2019年度(2020年3月卒)の採用活動に関するスケジュールは2018年度と同様に実施されます。また2019年度の求人状況も、各企業の採用担当者の話から考えると2018年度と同様に好調であると考えられます。2019年度以降の景気の状況を予測することは困難ですが、技術者が

少ない状況であることに変わりはありません。よって2019年も売り手市場での就職活動が進んでいくと考えられます。しかし一方で、志望業界は1位が「医薬品・医療関連・化粧品」で、次いで「電子・電機」「素材・化学」が同率で続くというように、前年同期調査とトップ3が入れ替わったとのことです。また理系は製造業が上位に多く、理系男子は「電子・電機」、理系女子は「医薬品・医療関連・化粧品」が最も多い状況とのことです。(「キャリアス就活2020 学生モニター調査結果」(2019年1月))

インターンシップの実施状況については、前年度と変わりがありません。インターンシップの本来の意味は「実務能力の育成や職業選択の準備のために、学生が一定期間、企業等で仕事を体験する制度」(広辞苑より抜粋)です。これが経団連の日数規定を廃止したことにより増えている「1日以内」で完結するインターンシップ(1day インターンシップ)は前項で記述したように、仕事や実務体験を主体としたものではなく、その実態は企業説明会や現場見学会、あるいはワークショップであるものがほとんどのようで、短期のインターンシップは企業説明会等と考えて参加した方が良いでしょう。そして、企業説明会である以上、当然採用活動の一環なので、3年生は就職活動として、あるいは採用選考として緊張感を持って積極的な姿勢で参加していただきたいと思います。

生産工学部では就職支援プログラムとして、学科就職ガイダンスを皮切りに各種ガイダンス、就職対策講座、女子学生向け就職対策講座などを行っています。そして3月には約500社の企業が参加する就職セミナーが開催されます。また教員採用試験対策ガイダンスや公務員試験ガイダンスならびに公務員対策講座も行っています。

公務員は工学系の場合多くの学生は技術職を受験することになります。技術職は事務系とは異なり採用試験の倍率が低いことが特徴ではないでしょうか。最後にこれらの支援プログラムを上手に利用して、また各自のアンテナを高くして情報収集を積極的に行い、就職活動に臨んでいただきたいと思います。

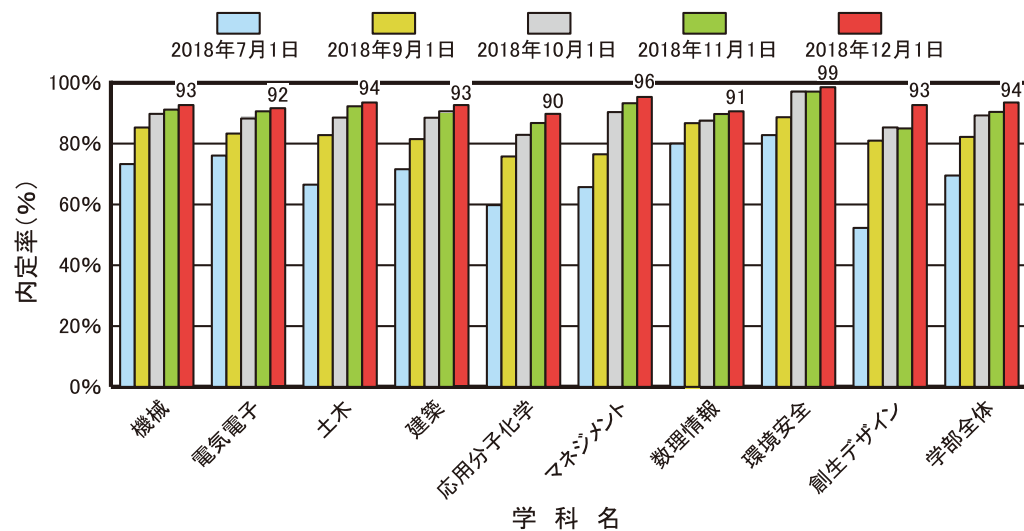


図1 各学科の月別内定率(学部生のみ)



## 機 械 工 学 科



## 企業に合った自分の強み

4年 岩本 拓磨  
(スズキ株式会社)

企業と自分とのマッチングを図るためには、まず受ける企業の求める人物像を知る必要があります。当たり前のことかもしれませんが、ここで勘違いしてほしくないのは、その情報はネットや本で調べるだけで済ませてほしくないということです。実際に会社へ行く、OB・OG訪問をして自分で見て、聞いて、話して生の情報を入手してみないことには何もわかりません。

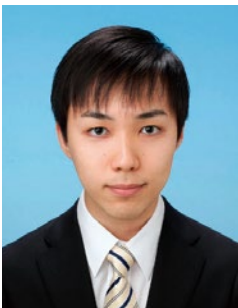
情報の少ないまま受けた企業で仮に内定が頂けたとしても、入社してからミスマッチが起こる可能性が高いと私は考えております。

就職活動をスタートした当初はネットや本の情報を頼りに面接を受けたことがありましたが、それだけの情報量では質問に対処しきれず、芳しくない結果でした。それからは就活ノートを作り、興味のある企業には必ずお話を伺いに行き、自分と企業との間でマッチングしている強みは何で、逆に弱みは何なのか考えた上で受けるか否かを決めました。自分の強みが見つからない場合が出てきたことがありましたが、過去の自分の中からどんな小さなことでもノートに書きだし、見つけました。自分を偽ってまで無理する必要はありませんが、大抵は探せば見つかるものです。

結局のところ私の強みはこういった準備をきっちりしてきたことだと思っています。準備するなんてことは当たり前のことで、就活生ならばなおさらなことかもしれませんが、企業によって自分の見え方は違いますので、客観的な視野を持つことが大事です。そのために、準備をきっちり行うことで、求める企業にとっての求められる人材になれると考えています。

人生の中で自分と見つめあうことはさほど多くないと思いますので、楽しみながら、満足のいく就職活動をしてください。応援しています。

## 電 気 電 子 工 学 科



## 自分という商品を“目立たせて”売り込む

4年 有賀 拓也 (凸版印刷株式会社 内定)

座右の銘は「一見は一読に如かず」、ESは『私は貴社の未来を変えられます』で始め、『続きは実例をお見せしながら、是非面接で』と締める。説明会には電子基板を模した緑のネクタイを着け、面接では資料を配布して説明する。これが私の強みの全てです。

人の第一印象は覆りにくく、また人は往々にしてヒトやモノを表面しか見ません。それも数が多いと1つを見る時間は極めて短くなり、見方も雑になります。正に就職活動における“探る側”の心理そのものです。そこで「いかに最初で目立てるか」が重要になると私は考えました。

プレゼンでいうところの“掴みのトーク”、小説や漫画の1ページ目のような。奇抜でなく、悪目立ちしない、それでいて“他の学生と違う”目立ち方とは何か。研究した結果が文頭の通りです。

印象的なフレーズを太さの違う3本のペンで綴り、見栄えにも違いを出しました。そうして好奇心をくすぐり、面接にてESの真意を周到な準備とアドリブを交えて伝える。書面から口頭全てに一貫性をもたせ、自分という商品を最大限目立たせて売り込んだのです。

私は決して就活を“勝ち抜いた”優秀な学生ではありません。18社受けて7社落ちました。途中で選考を辞退したものも含めると、実際は半分以上が不採用だったでしょう。つまり私の“強み”は就活における必勝法では全くありません。しかしそれが私にとって最適な戦略であったことは確かでした。

就活で大切なのは採る側に「この学生をもっと知りたい、話したい」と思わせ、それを「一緒に仕事がしたい」に変えさせること。そのために私は“全力で目立つ”ことを選びました。就活生の皆様も自分にとって最適な“自分の売り込み方”を考えてみてはいかがでしょうか。

## 土 木 工 学 科



## 将来の夢を持つこと

4年 有家 舜祐  
(清水建設株式会社 内定)

私が、就職活動を行うにあたり大事にしていたことは、「自分の夢を明確に持つこと」、「行動して納得すること」でした。私が大学で土木を専攻した理由は、公共性の高い土木構造物を構築する“ものづくり”を通じて、自然災害から日本の国土を守り、人々の命を守りたいという使命感から選びました。しかし、実際に大学に入学し、勉強するにつれて、その専門範囲の広さに驚き、いったい自分は将来何をやりたいのか見えなくなり悩む時期もありました。その中で、キャリアデザインや同演習科目等を通じて、今の自分を振り返り、OB講演会で社会の最前線で活躍されている先輩方の話を聞いたことで

将来の自分を徐々に想像できるようになりました。さらに生産実習を通じて、「海外で活躍できる土木技術者を目指し、世界に残る土木構造物をつくる」という夢が明確になり、就職活動に臨むことができました。

私は、清水建設(株)に内定を頂くことができましたが、この内定を勝ち取ることができたのも、ぶれることのない夢を持って行動してきた結果が自信に繋がり、面接で評価されたのだと自負しています。もちろん、夢を実現できる会社は他にもあったかもしれませんが、私の性格にあった職場の雰囲気や、5年後、10年後のビジョンが思い描けるかを考慮しました。と同時に現場見学はもちろん、OB訪問をこなしながら、疑問に思ったことを一つずつ明確にしていきました。

これから就職活動する皆さんは、自己分析からはじまり履歴書、エントリーシート、SPI試験対策などやることは沢山ありますが、まずは将来の夢を明確にして是非活動して下さい。それが後悔のない、内定への近道だと思います。

## 建 築 工 学 科



## 時間の余裕と心の余裕

4年 角田 優介  
(清水建設株式会社 内定)

私は、3年生の12月頃から興味のある業種の企業について調べ、早い段階で受ける会社を3社に絞りました。企業調査には主に学校で開催される企業説明会とリクナビなどの就活サイトを利用していました。では、なぜ早い段階で3社に絞ったかという、大手スーパーゼネコンを目指していたため絞りやすかったということもありますが、エントリーシート作成や各社の面接対策、会社説明会への参加には時間がかかるため気持ち的にも集中力、心の余裕の面で3社が最適だと思ったからです。

3社に絞ることで、時間と心の余裕を持つことができ、就職活

動を余裕を持って進めることができました。受ける会社の数が多すぎると、本当に入りたい第1志望はどこなのか迷いが生じ、各社の特徴に合わせた面接対策なども疎かになってしまうと考え、自らがこなせる範囲に絞ることが大切だと感じました。

次に、私が就職活動中に心がけていたことは、常に第1志望に受かるという気持ちを持っていたことです。

私の第1志望は内定を頂いた清水建設であり、会社を受ける際に対策として行ったことの中で特によかったことは、選考にSPI試験を採用していたため、練習のためにSPI試験を予め受けたことです。SPI試験は特定の会場で行う試験であるため場の雰囲気慣れること、試験の形式に慣れることが大切であると思います。

最後にエントリーシートおよび面接について、エントリーシートは受ける会社に入社した同大学の先輩に添削、アドバイスをもらい、面接についても、どのようなことを聞かれるのか事前に聞くことで、対策を練ることができました。また、どれだけ熱意を持って第1志望であるかを相手に伝えることができるかが大切であると感じました。

## 応 用 分 子 化 学 科



## わからないことは直接聞きに行く！

4年 坂本 裕菜  
(凸版印刷株式会社 内定)

就活をする上での私の強みは、「積極性」と「コミュニケーション能力」だと考えます。興味のある企業に自ら連絡し、OB・OG訪問に伺いました。わからないことや不安に思っていることを直接聞くことができ、とても貴重な機会だったと感じています。また、会社実際に足を運び社員の方からお話を伺うことで、インターネットや書籍では知れない情報、感じ取ることのできない会社の雰囲気を知ることができました。この知識は、自ら連絡する「積極性」と社員の方か

らより多くの情報を得るための「コミュニケーション能力」があったからこそ得られたのだと考えます。その結果、本当の意味で自分に合った企業を選ぶことができました。また、同じ企業を受けた他の就活生より一歩踏み込んだ発言ができたと感じています。さらに、コミュニケーション能力は面接でもとても活かされました。

質問の意図がわからない時はためらわずに聞き返し、ひとつひとつ丁寧に答えていくことで深い議論ができたように感じます。その結果、面接特有の重い雰囲気にはならず終始笑顔で応答することができました。

このように、私の強みである「積極性」と「コミュニケーション能力」によって事前に踏み込んだ情報を得ることができ、「コミュニケーション能力」によって面接を有意義な場にすることができました。

## マ ネ ジ メ ン ト 工 学 科



## 他人とは違う強みで戦う

4年 堤 恵美  
(ハウス食品株式会社 内定)

就職活動を通して、その会社に入社出来たらどういふ分野でどのように活躍したいのか、具体的に考えられていたことが1番の強みであったと思います。

私が食品に携わる仕事がしたいと思い始めたのは中学生の頃だったので、高校では調理師養成施設に通い、調理師免許を取得しました。その3年間で、食品企業で働きたいという具体的な目標が出来ました。さらに、マネジメント工学科では、工学的な手法で経営を解析・評価することを学び、食品企業でどのように働きたいかを明確にしました。食品企業への就職を考えている理系の人の多くは、研究職や

技術職でエントリーをしていましたが、私はあえて営業・業務職でのエントリーをしました。夏のインターンシップで農研機構の食品研究所に行かせていただき、研究職の面白さや難しさを知ったうえで、技術職と営業職の架け橋になれるような中間のポジションとして経験を活かしていけたらいいと思うようになりました。

また、営業・業務職では文系の方が多いですが、営業推進など沢山のデータを扱う仕事も多く、数字に抵抗がない私だからこそできる分野で活躍したいという事は、面接中ずっと言い続けていました。語彙力やコミュニケーション力では劣等感もありましたが、入社後の具体的なイメージや、他人にはない経験をどのように活かせるかを明快に伝えました。具体的に将来をイメージすることでどのような質問にも素直に答えられたし、ありのままの自分を表現できたからこそ、内定をいただけたのだと思います。

就職活動で後悔しないためにも将来のビジョンをしっかりと考え、自分を変に飾らず素直な思いを伝えられるように頑張ってください。



## 数 理 情 報 工 学 科

自分自身の実力に自信を持つ  
4 年 中田 大希

(株式会社日立超 LSI システムズ 内定)

「自分自身の実力に自信を持って行動する。」これは、私が常日頃から心掛けています。

私は、数理情報工学科に入りプログラミングを学びだしてから、将来はプログラマーやシステムエンジニアになりたいと思っていました。3 年生になり研究室に配属され、多くの技術・知識を身に着け、それを活かした研究を行ってきました。

3 年生の夏に生産実習(インターンシップ)に参加した際、企業の方から実際に業務で扱う予定のソフトウェア開発の課題を与えられました。本当に開発できるかという不安はありましたが、その反面、今までにない規模の開発に携わることができる、そし

て自分の実力を試すことができるという期待もありました。

結果的には、順調に開発を進めることができ、良い結果を残すことができました。今思えば、研究室で得た技術や知識、またプレゼンテーションの経験などがとても活かされていたと思います。それ以降、より一層自分自身を高めるために、どんなことでも積極的に取り組み、1day インターンシップなどにも参加しました。最終的に、自分自身の実力が評価され、企業からの内定に繋がったと思います。

就職活動は人によって進み方や目指す場所は様々だと思います。周りの意見を聞き、参考にすることや、面接などの対策を行うことも重要だと思いますが、大学生活はもちろん、私生活を含め多くのことを経験し自分自身を高め続け、培ってきた実力を信じるのが一番大事なことだと私は思っています。

成長を実感する場がなく、不安を抱えたまま就職活動を始める人もいると思います。しかし、就職活動を始めるまでの約 3 年間で必ず成長しているはずです。その実力を信じて自信を持って就職活動を始めて下さい。

## 環 境 安 全 工 学 科

自分のペースを保ち続ける  
4 年 吉田 和貴

(東日本高速道路株式会社[NEXCO 東日本] 内定)

就職活動で大切にしていた強みは『周りに流されない』ことです。

私の内定先は国公立大学や大学院生の方の志望者が高く、募集人数も全体で 100 人程度のため、改めて振り返ると無謀な挑戦のように感じました。そのうえ、高速道路会社に車の免許を未取得の状態で挑んだため、ES 落ちもあり得る致命的な状況でした。結果として内定を得ることができたのは、自分の熱意や入社後にやりたいことを確実に伝えられたことだと思います。

私は 1 年次より桜泉祭実行委員に所属し、学内での活動に加え、学外では日本大学全体の募金活動などの運営に携わりまし

た。アルバイトはサービス業だったこともあり、多くの人と接する機会がありました。本番ではお会いしたことのない方と面接することがほとんどでした。そのような状況でも面接で極度に緊張せずに望むことができたのは、このような経験が活かされ『自分のペースを保つこと』ができたことが内定を得ることにつながったと思っています。

入学してから就職活動までの 3 年間は意外とあっという間で、限られた時間の中で学業はもちろんのこと、学内・学外・ボランティアなど幅広い経験を積むことが大切だと思います。特に生産実習の科目は他大学でもそう多く設置されていないことから、面接でもインターンの経験は有利になると思います。ES、自己 PR や志望動機で詰まったら、生産実習の経験を書くこともひとつの手段です。

「いつまでに何をやる」は、人それぞれ受ける企業によって異なります。決して周りに自分を合わせるような行動をしてはいけません。説明会や選考のスケジュール管理に加え、ES や面接の準備など細心の注意を払い、自分が有利となるペースを保ちながら就活を進めていきましょう。

## 創 生 デ ザ イ ン 学 科

信念を貫く  
4 年 鈴木 友理

(株式会社 LIHIT LAB. 内定)

私は、中学生の頃から文房具の商品企画やデザインに携わる職に就きたいと考えていました。

創生デザイン学科に入学した当初から、「納得のいく内定を取る」ことを目標とし、就職活動を見据えた生活を心掛けてきました。授業や課題は手を抜かず、一生懸命に取り組みました。研究室は、ポートフォリオに載せる作品を増やすため、実際に家具やジュエリーをデザインし制作する研究室を選びました。

学業を疎かにしない事は勿論ですが、文化祭実行委員会にも入りました。私は校内装飾を制作する部署に所属し、授業外でも

モノづくりを行う生活を 3 年間続けました。最高学年ではデザイン責任者を経験し、様々な学びを得ることができました。他にも、デザイン学会における口頭発表やアメリカへの短期留学などに積極的に参加しました。この様々な経験は、エントリーシートや面接で非常に役立ちました。

私は積極的な同級生に比べ、生産実習をおこなった企業数は少なかったのですが、その分自己分析や企業研究、ポートフォリオ制作に力を入れました。企業研究の際、志願している文具業界は採用が少ないと知り、非常に不安になりました。ですが、夢を諦められず、文具メーカーを主軸に就職活動を行いました。結果、第一志望の会社から企画・デザイナー職として内定を頂くことができました。来春から大好きな文房具の開発に携わる仕事ができると思うと、とても嬉しいです。

就職活動を振り返り、自分の強みは「忍耐力」だと思いました。勿論挫けてしまうことは多々ありましたが、そこで諦めず、信念を貫けたことが内定に繋がる要因だったのではないかと考えます。後輩の皆さんにも、信念を貫き頑張ってください。

## 学科・系ニュース

## 機 械 工 学 科

学会等で研究成果を発表した多くの学生が  
様々な賞を受賞しています

学生たちの国内学会および国際会議における研究成果発表が高く評価された受賞記録の一部を表にご紹介します。教員では、高橋進教授が日本塑性加工学会のフェローに認定されました。また、日本鍛圧機械工業会の創立 70 周年記念式典において工業会への事業活動推進、業界の振興および技術発展への貢献が評価されて、MF 感謝状が授与されました。その他、機械工学科のホームページ (<http://www.me.cit.nihon-u.ac.jp/>) では、機械工学科の学生が所属するサークル活動などの様々なニュースが紹介されていますので、そちらもご覧ください。卒業後、修了後の益々のご活躍を機械工学科教職員一同、お祈り申し上げます。

| 年度       | 学生氏名  | 学年 | 受賞名                                                |
|----------|-------|----|----------------------------------------------------|
| 平成 29 年度 | 金 豊   | M1 | 日本マイクログラフィティ応用学会第 29 回学術講演会 (JASMAC-29) 毛利ポスター賞取組賞 |
|          | 小田嶋舞  | M2 | 平成 29 年度鉄道サイバネティクス協議会学生優秀論文賞                       |
|          | 片山大輔  | M2 | 第 12 回日本磁気科学会年会学生ポスター賞                             |
|          | 富田 晋  | B4 | 第 62 回 FRP 総合講演会・展示会優秀ポスター賞                        |
|          | 上田翔也  | M2 | 第 50 回学術講演会優秀学生発表賞 (口頭発表)                          |
|          | 由井寛久  | M2 | 第 50 回学術講演会優秀学生発表賞 (口頭発表)                          |
|          | 平賀翔季  | M2 | 第 50 回学術講演会優秀学生発表賞 (口頭発表)                          |
|          | 中村和貴  | M2 | 第 50 回学術講演会優秀学生発表賞 (口頭発表)                          |
|          | 小熊広之  | D3 | 第 50 回学術講演会優秀学生発表賞 (口頭発表)                          |
|          | 真水大介  | M1 | 第 50 回学術講演会優秀学生発表賞 (口頭発表)                          |
|          | 門井健介  | M2 | 第 50 回学術講演会優秀学生発表賞 (口頭発表)                          |
|          | 野島 悠  | M2 | 第 50 回学術講演会優秀学生発表賞 (口頭発表)                          |
|          | 清水爽太  | M1 | 第 50 回学術講演会優秀学生発表賞 (ポスター発表)                        |
|          | 森 拓也  | M1 | 第 50 回学術講演会優秀学生発表賞 (ポスター発表)                        |
|          | 生井裕樹  | M1 | 第 50 回学術講演会優秀学生発表賞 (ポスター発表)                        |
|          | 武田拓也  | M1 | 第 50 回学術講演会優秀学生発表賞 (ポスター発表)                        |
|          | 影山正典  | M1 | 第 50 回学術講演会優秀学生発表賞 (ポスター発表)                        |
| 平成 30 年度 | 林田悠一  | M1 | 第 24 回鉄道技術・政策連合シンポジウム (J-Rail2017) 優秀論文発表賞         |
|          | 富田 晋  | M1 | 日本設計工学会 2018 年度春季大会研究発表講演会学生優秀発表賞                  |
|          | 川口 奨  | M1 | 第 63 回 FRP 総合講演会・展示会 (FRP CON-EX 2018) 最優秀ポスター賞    |
|          | 富田 晋  | M1 | 第 63 回 FRP 総合講演会・展示会 (FRP CON-EX 2018) 最優秀ポスター賞    |
|          | 川口 奨  | M1 | 第 51 回学術講演会優秀学生発表賞 (口頭発表)                          |
|          | 清水爽太  | M2 | 第 51 回学術講演会優秀学生発表賞 (口頭発表)                          |
|          | 金 豊   | M2 | 第 51 回学術講演会優秀学生発表賞 (口頭発表)                          |
|          | 萩野谷健吾 | M1 | 第 51 回学術講演会優秀学生発表賞 (口頭発表)                          |
|          | 井口賢太郎 | M2 | 第 51 回学術講演会優秀学生発表賞 (口頭発表)                          |
|          | 染宮聖人  | M1 | 第 51 回学術講演会優秀学生発表賞 (口頭発表)                          |
|          | 南條元貴  | M2 | 第 51 回学術講演会優秀学生発表賞 (口頭発表)                          |
|          | 野崎利博  | M2 | 第 51 回学術講演会優秀学生発表賞 (口頭発表)                          |
|          | 松田明子  | M1 | 第 51 回学術講演会優秀学生発表賞 (ポスター発表)                        |
|          | 辻 健太  | M1 | 第 51 回学術講演会優秀学生発表賞 (ポスター発表)                        |
|          | 阿部翔一  | M1 | 第 51 回学術講演会優秀学生発表賞 (ポスター発表)                        |
|          | 有働 開  | M1 | 第 51 回学術講演会優秀学生発表賞 (ポスター発表)                        |
|          | 林田悠一  | M2 | 日本鉄道サイバネティクス協議会学生優秀論文奨励賞                           |

※学年は受賞時

## 電 気 電 子 工 学 科

## WINCOM 2018 オープン部門優勝

平成 30 年 11 月 4 日 (日) に日本大学生産工学部津田沼キャンパスで開催された第 11 回風力発電コンペ WINCOM2018 に電気電子工学専攻修士課程 1 年生の田宮拓明君と山口輝人君のチームが参加しました。この風力発電コンペは、自転車用の発電機を使って独自の発想で風力発電機を製作し、そのアイデアや発電量を競う大会です。田宮君、山口君は機械工学専攻の大学院生、阿部翔一君とチームを組み「冠鷲」という発電機を製作し、大学生や社会人が競うオープン部門に参加しました。和紙を使って製作された軽量の「冠鷲」は低風速下でも多くの発電量を示し、オープン部門に参加した発電機の中で最も多い発電量を記録して見事優勝しました。



優勝し落合学部長と写真に収まる田宮君 (中) と阿部君 (右)

電気電子工学科 4 年生の宇佐 護君が第  
三種電気主任技術者に合格

電気主任技術者は、発電所や変電所、工場、ビルなどの受電設備や配線などの電気設備の保安監督者として置くことが法律で義務づけられている技術責任者です。そのため、電気主任技術者は社会的評価が非常に高い国家資格です。

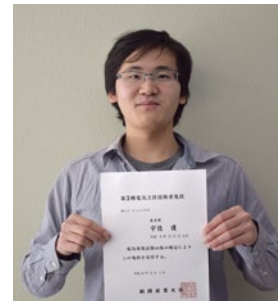
■電気電子工学専攻修士課程 2 年生の鹿志村亮介君が第 51 回 (平成 30 年度) 日本大学生産工学部学術講演会で優秀学生発表賞を受賞しました。2 年連続の受賞です。

■電気電子工学専攻修士課程 1 年生の池田隼輝君と金森裕也君が平成 31 年度日本大学大学院海外派遣奨学生に選ばれました。デ

ンマークおよびアメリカへ派遣予定です。

■2018 年度第 42 回静電気学会全国大会において本学科助手の江頭雅之先生が増田賞を受賞しました。静電気学会の増田賞は静電気研究の分野で活躍が期待される若手研究者に贈られる賞です。

今年度も多数の学生および教員が国内外で活躍しました。



三種電気主任技術者に合格した宇佐 護君



## 土木工学科

### 将来のビジョンを明確にし、就職のミスマッチを減らす指導への取り組み

土木工学科の就職状況は、バブル期に次ぐ売り手市場を背景に、これまでの就職100%の継続に加え、大手企業を含む志望度の高い企業への内定率が向上しています。この背景には、開催間近である東京オリンピックやリニア中央新幹線が取り沙汰されることが多いのですが、今後ますます増加する土木構造物の老朽化、大規模公共工事の計画、そして慢性的な技術者不足の深刻化が影響し、今後も売り手市場が継続されることが予想されます。また、これらは民間企業だけに留まらず、都道府県庁・市町村といった地方公務員、更には国家公務員の場合も同様で、これらの合格者が年々増加している一方で、十分な人材確保までは至っていないのが現状です。

この売り手市場は、就職活動を行っている学生にとって追い風となります。しかしその反面、安易に進



3年生業界研究セミナー（5月開催）

路を決めてしまう学生も少なくなく、いわゆる「ミスマッチ」とならないよう指導していくことも重要です。土木工学科で行っている体系的なキャリア教育では、業界団体による出前授業やOB・OG講演会の実施、また3年前期には生産実習における企業選定を視野に入れた多数の企業が参加する業界研究セミナーを経て、生産実習へと連携します。その結果、自分の将来像をイメージしながら生産実習先を選ぶ学生が増え、生産実習と就職活動が直結し、そのまま内定先となる傾向が増加しています。また、日本インターンシップ推進協会主催の第18回インターンシップ成果発表会において本学科の高木陽太さんが成果を発表し、見事「優秀賞」を受賞しましたが、まさにこれも充実したキャリア教育の賜物ではないでしょうか。以上のように、体系的なキャリア教育を根幹とし、国から地方の地場ゼネコンまで数多くの卒業生と更なる連携を図りながら、少しでもミスマッチを減らすと同時に、多種多様な幅広い土木業界の中から将来のビジョンを明確に見出す取り組みを展開して参ります。



第18回インターンシップ成果発表会  
優秀賞受賞者（高木陽太さん）



りながら、少しでもミスマッチを減らすと同時に、多種多様な幅広い土木業界の中から将来のビジョンを明確に見出す取り組みを展開して参ります。

## 応用分子化学科

### 付属高校出身学生を対象とした交流イベントを開催

11月22日（木）に、応用分子化学科に所属する付属高等学校出身の1年生を対象とした交流イベントを開催しました。昨年度に引き続き開催されたイベントには付属高校出身の1年生13名と学科教員11名が参加し、学生と教員の混成チームでボウリングを楽しみました。



### 学会発表での受賞者

（詳細は学科HP等をご確認ください）

【第5回海水・生活・化学連携シンポジウム：平成30年10月】  
《優秀ポスター賞》木村 太一（M2）、大津 涼（B4）

### OB・OG 交流会を開催

11月24日（土）に恒例となっている応用分子化学科OB・OG交流会が開催されました。今回は32名のOB・OGに協力していただき、熱気にあふれた交流イベントを開催することができました。今後も卒業生には、後輩のキャリア形成支援のために協



力をお願いできればと思っています！

OB・OG 交流会イベントの様子

### 卒業生の茶谷様が「ガイアの夜明け」に出演

卒業生インタビューにも登場していただいておりますが、工業化学科（現・応用分子化学科）卒業生の茶谷秀樹氏（小松マテレー（株））が、耐震補強に関する革新的技術（材料）に関わる技術者として出演されました。

## 建築工学科

### 『宮脇 檀 手が考える・手で教える』展

2018年9月29日から10月21日まで、本学39号館1階ギャラリーにて『宮脇 檀 手が考える・手で教える』展が開催されました。これは27年前に建築工学科の居住空間デザインコース創設にあたり研究所教授を務めた故・宮脇檀先生のJIA全国巡回展『建築家・宮脇 檀のドローイング展』と、本学制作の『教育者・宮脇 檀へのオマージュ展』のジョイント開催で、一般建築関係者のみならず、本学学生、教員にとって改めて宮脇檀先生の実践された教育のリアリティ、そして人間宮脇檀を知る貴重な機会となりました。



その会場は建築家宮脇檀先生が日本建築学会賞を受賞した「松川ボックス」の中庭を原寸で再現することで、会場を2つの展示スペースに分ける構成です。『ドローイング展』は、宮脇先生の自由自在なフリーハンドのドローイングの中に、28才の時から実作を次々と発表し、時を経るごとに変化していく設計のあり様を身近に見ることができました。

もう一方の『教育者・オマージュ展』では宮脇先生手作りの学生へのテキスト「塾長通信」や、理想の住まいのスケッチを学生が立体化したり、学生が調べてまとめた混構造の変遷を表した模型展示や、訪ねた出石のまちづくりや全国の住宅地についての短編映画を上映しました。

その中で、病床にあった宮脇檀氏が、「M氏のための別荘」という1年生課題30人の案それぞれに、評や指導をユーモアを交えて丁寧に記したイエローレペは学生への愛と夢であり、一方同時期に記された事務所所員との打合せトレッシングペーパーは、カラフルな色鉛筆の生き生きとした表現の中に具体的な指示や厳しい言葉が並び、創造への強い意志があふれています。両者の対比は、本展覧会の見所のひとつでした。



## マネジメント工学科

### 中國科技大學管理學院との交流プログラムでキッコーマン工場を見学

今年度も、台湾の中國科技大學管理學院との交流プログラムが7月8日（日）～15日（日）の8日間、開催されました。

来日した学生達は、マネジメント工学科の講義や実習などを聴講し、野田のキッコーマン工場を見学しました。

工場見学には、中國科技大學管理學院からの留学生、4年生で構成される学生支援のための活動をしているピアサポーターも同行しました。当日は、野田市割烹「志乃」で醤油特製弁当を味わい、中国語を交えた見学後に、工場内でせんべい焼き体験をするなど、日本人学生との交流にも花が咲きました。



### 学年を越えた交流

11月に開催されました桜泉祭（学園祭）では、本学科OBで構成されている生産工学部校友会マネジメント部会からの御神輿製作・修理代等のご支援のもと、学科の御神輿を出しました。

今年は、昨年の白から黒に色を変更するなどの神輿改修（制作）を進めました。当日の担ぎ手にはピアサポーターも加わり、夜には懇親会も開催され、学年を越えた交流の場となりました。

12月の生産工学部で開催されました学術講演会では、大学院生に交じって本学科の学部生も多数発表しました。学部全体における審査の結果、下記2件の学部3年生による発表が、優秀学生発表賞に輝きました。

■四海濤「アクティブラーニングにおける学習者の多様性が教育効果に与える影響－社会人によるサプライチェーンゲームを用いた実証研究－」

■北野綾人・秋元隆峰・熊倉賢人・小林歩夢「自動車の操作スイッチ類のレイアウトが視認性と運転行動に及ぼす影響」

今後も、学年を越えた交流や海外との交流、チャレンジする場の提供を通じて、学生の成長支援を学科として続けていきます。





## 数 理 情 報 工 学 科

### 国際会議で口頭発表

国際会議 24th IEEE International Symposium on On-Line Testing and Robust System Design が 7 月 2 ～ 4 日に Spain で開催され、大学院博士前期課程 2 年の越智小百合さん（細川研究室所属）の論文 "A Capture Safe Static Test Compaction Method Based on Don't Cares" が採択され、発表しました。本発表では、グラフの頂点彩色問題に帰着した VLSI の低消費電力指向テスト圧縮アルゴリズムを提案しました。

また、室蘭工業大学で開催された国際会議 JSST2018 にお



写真左：発表する越智小百合さん 写真右：発表する花岡佑哉君

いて、学部 4 年生の花岡佑哉君（伊東研究室所属）が "Three-Dimensional Shape Modelling of Metal Foam with Rounded Cells by Implicit Surfaces" という題目で、9 月 19 日に口頭発表しました。本発表では、「発泡金属」の自動モデリング法を提案しました。従来よりも実物に近い形状のモデルを生成できるため、高精度な数値シミュレーション結果が得られる可能性があります。

### 学生奨励賞を受賞

8 月 27 日に一般社団法人数理科学会主催の第 37 回数理科学講演会が本校津田沼キャンパス 39 号館にて開催されました。

大学院博士前期課程 1 年の榎本知幸君（角田研究室所属）が、人工知能に関するセッションにおいて「CNN におけるパラメータを持つ非線形活性化関数とその適用」と題して講演し、優秀な講演を行った学生に贈られる、学生奨励賞を受賞しました。



表彰式での榎本知幸君

## 創 生 デ ザ イ ン 学 科

### 「Sigfox で生活を楽しむ IoT アイデアコンテスト」優秀賞受賞

京セラコミュニケーションシステム株式会社が主催する学生コンペ「Sigfox で生活を楽しむ IoT アイデアコンテスト」において、本学科出身で現在数理情報工学専攻修士 1 年の竹平幸矢君がアイデア部門優秀賞を受賞しました。

低消費電力 IoT デバイスの特性を活かしたガジェットの開発と、それを生かした商業施設内での「宝探しイベント」による顧客の回遊動線を活性化させるシステムの提案です。書類審査による予選を経て本戦へと進み、並み居る他大学生をおさえる受賞となりました。



### 「第 10 回 ハーフエ学生デザインコンペティション」クライン賞受賞

第 10 回ハーフエ学生デザインコンペティション 2018 において、島田雄太君、富山竣紀君、細井大佑君、湯田坂美晴さん（いずれも創生デザイン学科 3 年生・中澤研）が出展した作品「緑の再生」が、「クライン賞」を受賞しました。課題は渋谷川地区を対象とした『Wellness architecture（ウェルネス アーキテクチャー）』で、島田君らは、人工物にあふれた渋谷地区の中に、風況、日照シミュレーション等の情報技術を援用して自然豊かな心地よい空間を提案しています。



## 環 境 安 全 工 学 科

### 学科創設 10 周年！学内外のイベントに積極的に参加！

学科創設から今年で 10 年を迎え、平成 30 年 9 月 29 日に津田沼キャンパスにおいて環境安全工学科・創生デザイン学科創設 10 周年記念祝賀会を開催しました。両学科の卒業生約 220 名、校友会役員と教職員約 150 名の方々にご出席いただき、盛大に祝賀会を開催することができました。

### 学外環境安全に関わるイベントにも積極的に参加

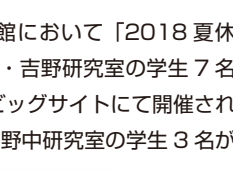
8 月 7 日から 3 日間、国立科学博物館において「2018 夏休みサイエンススクエア」に坂本・小森谷・吉野研究室の学生 7 名が参加し、10 月 13 日、14 日に東京ビッグサイトにて開催された「ぼうさいこくたい 2018」に岩下・野中研究室の学生 3 名がリモートセンシングを利用した災害把握の取り組みとしてブース展示を行いました。さらに、12 月 6 日から 3 日間、東京ビッグサイトにて「エコプロ 2018 SDGs 時代の環境と社会、そして未来へ」が開催され、



10 周年祝賀会の鏡開き



10 周年祝賀会の様子



エコプロに参加したブース

岩下・野中研究室の 3 名がリモートセンシングを利用した環境モニタリング技術に関してブース展示するなど、専門知識の普及に貢献しました。

学内行事では 11 月の桜泉祭にて、お神輿が 3 年連続優勝を遂げました。古川茂樹教授指揮の下、連日作業に取組み、完成したお神輿を学科 1 年生から大学院生まで 20 名以上の学生が元気に担ぎました。



3 年連続優勝お神輿

国家資格の取得では、2 級土木施工管理技術検定の学科試験に、保坂研究室の秋山大知君、荒木健太郎君、井上浩杜君、太田直君、岡田基志君、細田大矢君、前野正貴君、吉田和貴君と永村研究室の大貫将貴君、大村梨菜さん、瀧将太郎君の 11 名が合格。甲種危険物取扱者試験に、吉野研究室の朝日高志君が合格しました。

教員の研究活動も活発です。平成 30 年 3 月に今村幸准教授が「展開型エアロジェル実験小型衛星 EGG」という題目で日本機械学会の宇宙工学科部門宇宙賞を受賞されました。平成 30 年 11 月 15 日に秋濱一弘教授が「日本燃焼学会 第 56 回燃焼シンポジウム」にて、「燃焼によるすす粒子生成の計算とその応用」について基調講演を行いました。平成 30 年 12 月に保坂成司教授が監修した「1 級土木施工管理技士過去問コンプリート 2019 年版」が誠文堂新光社より発行されました。

環境安全工学科では更なる発展を目指し、多方面において学生と教員が一丸となって活動していきます。

## 教 養 ・ 基 礎 科 学 系

### 教養・基礎科学系教員の卒業研究への参加が今年度からはじまりました

本学部学生に新たな研究課題選択の幅を広げる目的で、今年度より教養・基礎科学系教員が学科教員とともに、卒業研究指導を実施する新たな取り組みが行われています。このような取り組みの成果の一つとして、松本真和准教授および小林奈央樹准教授（教養・基礎科学系）が岡田昌樹准教授（応用分子化学科）とともに研究指導した応用分子化学科 4 年の大津涼さんが、第 5 回海水・生活・化学連携シンポジウム（2018 年 10 月 25 日～26 日、石巻専修大学）で優秀ポスター賞を受賞いたしました。受賞発表題目は以下のとおりです。

大津涼、和田善成、小林奈央樹、岡田昌樹、松本真和、「痛風発症の遅延を目的とした尿酸ナトリウムの核発生および結晶成長の制御—N2 ファインバブルの導入効果—」

痛風の原因物質の結晶成長を制御することで、発症を遅延・抑制することを目的とした研究で、新しいことへ恐れずチャレンジをする大津さんの研究への姿勢と、専門が異なる各担当教員の知見がうまく調和したものになっています。



今年度教養・基礎科学系からは 7 名の教員が学科の卒研指導に参加しています。本学部の教育にさらなる厚みをもたせるべく、今後もこのような取り組みを系として継続してまいります。

### 学生製作のクリスマスツリーがお披露目

12 月 4 日、イルミネーションの灯りがともされた実校舎において、クリスマスツリー完成式が行われました。式では、クリスマスツリーを製作した学生たちによる製作報告も行われました。

クリスマスツリー製作のプロジェクトは、実校イベント企画として、1 年生 18 名の有志が参加し、大坂直樹教授、高澤弘明専任講師（教養・基礎科学系）、三井和男教授、木下哲人助教、中川一人助教（創生デザイン学科）指導のもと実施されました。学生は約 7 か月にわたって、初めてのツリーづくりに苦戦しながらも、ものづくりの楽しさを体感しつつ、材料や設置方法について工夫が凝らされた立派なツリーの完成にこぎつけました。参加学生はこのプロジェクトを通じて、ものづくりに対する意欲を向上させたのに加えて、学科の垣根を越えた仲間づくりもできたようです。





生産工学部は、学生が中心のキャンパスを目指し、教職員はもちろんのこと多くの方たちが様々な形で学生をバックアップしています。中でも一段と心強いサポートをしてくださる卒業生の方を紹介するのがこのコーナーです。今回は、昨年設立 75 周年を迎えファッションやスポーツ衣料を中心とした繊維業から医療・福祉・生活資材・建築建材の分野へ事業領域を拡大する小松マテレー株式会社の茶谷秀樹さんにご登場いただきました。



## 革新的な製品は、失敗から学ぶ心とチーム力から紡がれる

小松マテレー株式会社 理事 生産・技術開発本部長補佐 兼 資材購買部長 茶谷 秀樹さん

### ■繊維王国に生まれ、化学を志す

日本でも北陸地方は湿潤な気候に支えられて、その昔から繊維業が盛んです。特に合成繊維のシェアは全国の 60% を占めています。私の家も父が糸を撚（よ）る仕事をしていたので幼少期から繊維業と関わりの深い環境で育ちました。しかし当時は自分が繊維の仕事に就くとは想像もしていませんでした。高校時代理科の授業の実験が楽しくて、中でも目に見えて変化を起こす化学の世界に心を奪われていました。そこで工業化学科（現・応用分子化学科）に進んだわけです。

### ■実験に明け暮れた卒業研究と恩師との再会

学生時代の思い出と言えば、やはり卒業研究ですね。石川県の片田舎から首都圏に上京した当初は不安もありましたが、友人に恵ま

れお互いに切磋琢磨してきたことが研究に結びつきました。シクロデキストリンを用いた逆相関移動触媒というのがテーマでしたが、相方と二人で毎日のように実験を繰り返し、データを取っていた日々を思い出します。

一昨年の同窓会で約 30 年ぶりに恩師の清水先生とお会いした時、この研究を覚えていてくださっていたことに大変感動しました。研究はその後英訳して米国の雑誌に掲載していただいたとのこと。研究そのものが繊維の仕事に直結するわけではありませんが、一つのことをやり遂げるプロセスを学ぶ点では、今も私の中に生きているかけがえのない経験です。

### ■精練会社から先端ファブリックメーカーへ

「ものづくり」の企業に地元で就職できた

のは幸いなことでした。とはいえ化学を学んだ自分にとって繊維は新しい分野。しかも最初に配属になったのは開発部だったので、右も左も分からない状況でした。

繊維業といっても糸を製造する段階、糸を加工する段階、糸を織って編む段階など様々な工程が存在します。旧社名（小松精練株式会社）にあるように、当社は絹織物の不純物を取り除く「精練」の専門会社として



自社繊維を使った商品ショールーム。蛭川実花さんデザインの布柄もある。

茶谷秀樹（ちゃたに・ひでき）1966 年石川県小松市生まれ。52 歳。1989 年 3 月日本大学生産工学部工業化学科（現・応用分子化学科）卒業。同年 4 月小松精練株式会社（現・小松マテレー株式会社）に入社し技術開発部に配属。2011 年執行役員第 5 工場長に就任。2013 年から 2 年間は中国江蘇省にある小松精練（蘇州）有限公司にて執行役員副総経理を務める。2016 年理事に就任し技術開発本部長補佐兼先端資材営業本部先端資材企画室長。2018 年営業本部長補佐兼技術開発部長兼研究開発センター長から生産本部長補佐兼第 7 工場長を経て現在に至る。2018 年 9 月 18 日放送のテレビ東京『ガイアの夜明け』にて同社が開発し世界的に注目を受ける耐震補強材「CABKOMA ストランドロッド」の紹介で出演。趣味はゴルフ、旅行。



1943 年に創業しました。その後、様々な布に「色をつける」「水を弾く」といった機能をつける繊維加工技術へ事業が拡大し、インテリアからファッション、スポーツ、アウトドアなど幅広いアイテムの素材を開発し、先端ファブリック（布製品）メーカーへと歩みを進めることになります。

### ■画期的な耐震補強建材「CABKOMA ストランドロッド」

こうした中で約 10 年前に着手したのが、耐震補強用の建築部材「CABKOMA（カボコーマ）ストランドロッド」の開発です。繊維の会社が建築？と思われるかもしれませんが。実際に私が事業に関わる前の開発当初は、建築会社に取り合っても相手にしてもらえず、苦労に苦労を重ねたと聞いています。



「CABKOMA ストランドロッド」を使用し、耐震補強をした旧本社「ファープ」

CABKOMA ストランドロッドは、先端素材「炭素繊維」を芯に用いて合成繊維や無機繊維で包んだ複合材。炭素繊維の束に緩やかな撚（よ）りを加えるという繊維会社ならではの発想で、「軽くてしなやか」「錆びない」「伸縮しない」「デザイン性が高い」建材が誕生しました。特に金属は季節や温度変化で伸び縮みすることに対し、ストランドロッドはメンテナンスが必要ない点は大きな利点です。2018 年 9 月にテレビ東京『ガイアの夜明け』にて世界的建築家隈研吾さんと共同で進めた旧本社を改修するプロジェクトをご紹介いただきました。この施設「ファープ」

の落成式から 1 年後に隈さんが訪れ、外に張り巡らされたストランドロッドのワイヤーをギュッと握って伸縮していないことを確認し「よし！」と一声挙げられた瞬間は、感慨深いものでありましたね。

現在このストランドロッドは様々な建造物への可能性に注目を受けており、重要文化財である「善光寺 経蔵」の保存修理で耐震工法に採用され、世界遺産の富岡製糸場や二条城の耐震補強工事にも使用されることが決まりました。また、伸縮しない特性から駅の昇降式ホーム柵としても試験運用されており、今後検証を重ねて全国の駅に導入が進む予定です。その他にも、ハイテク・エコ建材として「グリーンビズ」という製品があります。



「グリーンビズ」の説明をする茶谷さん。驚くほど軽い。

繊維業の染色工程では、余剰バイオマスケイクと呼ばれる多量の微生物群を含んだいわゆる汚泥が排出されるのですが、これが廃棄物として長年の課題となっていました。そこでこれを約 1000℃ で焼き上げ、無数の微細な孔からなる「超微多孔性発泡セラミックス」の開発に成功しました。この建材は単なる廃棄物の再利用ではなく、劇的なスピードで水を吸収し、保水性も抜群に高いため、ヒートアイランド現象やゲリラ豪雨対策の路面舗装材としても注目を集めています。

### ■社名変更に込められた「ものづくり」の精神

このように、精練という加工工程からス

タートした会社が、今やファッション、スポーツ衣料のみならず、医療、福祉、生活資材、建築建材と事業領域を拡大することになりました。それに伴い 2018 年 10 月に社名を「小松マテレー」に変更となったのです。マテレー（= MATERE）とは、「素材を意味する material（マテリアル）」と「繰り返しを意味する接頭語 Re」の組み合わせによる造語です。常に繰り返し、新しい素材を世の中に提案する化学素材メーカーになろうという意志の表れでもあります。

### ■失敗から学び、仲間とのチーム力を大切にしたい

変化していく業界や事業が伸展する会社の中にいる私が在校生の皆さんにアドバイスできることがあるとすれば、それは新しいものを生み出すことは失敗の繰り返しでもあるということです。失敗することは決して恥ではありません。できる限り早い時期にたくさんの失敗を経験してください。大事なことは、同じ失敗を繰り返さないように努力を怠らないことだと思います。

また人間は誰もがスーパーマンなわけではありません。ノーベル賞を取られるような先生はほんの一握りの方たちです。我々のように凡人クラスの人間はどうすればいいのか。私は仲間と支え合い、チーム力を高めることにその答えがあると考えています。仮に失敗をしても仲間がいれば支え合って乗り越えることができます。私も幼少期から団体競技に精を出し、生産工学部在学中は仲間と野球チームを結成していました。社会に出たとき、こうした経験は役立っていると確信しています。当社の製品開発に限らず、「ものづくり」の分野では多くの方が力を合わせて、何度も失敗を繰り返しながら新製品を生み出していきます。ぜひ学生の時期に多くの仲間とコミュニケーションを取って支え合い、学生だからこそできる挑戦と失敗を経験して堂々と社会に飛び立ってください。

### 取材後記

取材に伺ったのは隈研吾氏と共同で改修した施設「ファープ」。まさか耐震補強材とは思えないほど美しいストランドロッドの空間に近未来建築の幕開けを感じました。『ガイアの夜明け』に出演されたことに話が及ぶと「開発に関わった先人を差し置いて恐れ多いことです」と語る茶谷さん。ご自身がいかにチーム力を重んじているか滲み出るようなお話でした。



# 平成30年度表彰学生

## 日本大学による表彰学生

### 学長賞

機械工学科 4年生

大岩 隼一郎 (オオイワ シュンイチロウ)

### 優等賞 (43名)

|           |     |       |           |     |        |          |     |        |
|-----------|-----|-------|-----------|-----|--------|----------|-----|--------|
| 機 械 工 学 科 | 4年生 | 佐藤 江美 | 建 築 工 学 科 | 4年生 | 高島 透   | 数理情報工学科  | 4年生 | 伏見 有史  |
| //        | 4年生 | 柳川 拓海 | //        | 4年生 | 飯野 淳也  | //       | 4年生 | 野口 友輔  |
| //        | 4年生 | 下村 拓夢 | //        | 4年生 | 香川 裕睦  | //       | 4年生 | 桑澤 旺秀  |
| //        | 4年生 | 伊藤 滉平 | //        | 4年生 | 島崎 耕平  | //       | 4年生 | 佐久間 翔太 |
| //        | 4年生 | 辻道 樹  | //        | 4年生 | 吉野 玄暉  | 環境安全工学科  | 4年生 | 篠田 聖大  |
| 電気電子工学科   | 4年生 | 山井 拓光 | //        | 4年生 | 三浦 智美  | //       | 4年生 | 里見 航希  |
| //        | 4年生 | 関口 航  | 応用分子化学科   | 4年生 | 雨ヶ崎 翔  | //       | 4年生 | 小林 一輝  |
| //        | 4年生 | 斉藤 直道 | //        | 4年生 | 三橋 美奈子 | //       | 4年生 | 松尾 大樹  |
| //        | 4年生 | 今関 巧  | //        | 4年生 | 水越 七海  | 創生デザイン学科 | 4年生 | 紫安 みずき |
| //        | 4年生 | 倉林 拓哉 | //        | 4年生 | 中島 隼   | //       | 4年生 | 加藤 愛   |
| 土 木 工 学 科 | 4年生 | 佐藤 謹光 | マネジメント工学科 | 4年生 | 堤 恵美   | //       | 4年生 | 大久保 理歩 |
| //        | 4年生 | 志村 鵬矢 | //        | 4年生 | 青木 佳人  | //       | 4年生 | 倉敷 滯奈  |
| //        | 4年生 | 田口 風馬 | //        | 4年生 | 秋田 智希  |          |     |        |
| //        | 4年生 | 渋谷 龍馬 | //        | 4年生 | 永野 友也  |          |     |        |
| //        | 4年生 | 小野 悠輔 | //        | 4年生 | 佐々木 寛登 |          |     |        |
| //        | 4年生 | 西郷 拓馬 |           |     |        |          |     |        |

## 生産工学部による表彰学生

### 精励賞 (32名)

#### 学術・文化部門 (23名)

機械工学専攻 M2 大塚 一輝

日本学術会議協力学術研究団体である日本産業技術教育学会が主催した第13回技術教育創造の世界(大学生版)発明・工夫作品コンテストにおいて、「コーヒーの苦みを減らすマドラー」が特別賞を受賞。応募件数42件。学会長賞2件。特別賞6件。奨励賞11件。

機械工学専攻 M2 坂本 隼

2018年4月23-27日にバシフィコ横浜で開催された14の国際会議からなるOPTICS & PHOTONICS International Congress 2018(OPIC2018,参加人数1185名、全発表総数837件)の国際会議The 6th Laser Ignition Conference 2018 (LIC2018)において、「[Effect of discharge lengths on combustion characteristics in laser breakdown-assisted long-distance discharge ignition]」の発表で、「Young Scientist Award」を受賞。口頭発表44件およびポスターセッション12件を対象に、若手研究者上位2名に与えられる賞でポスターセッションから選出。

機械工学専攻 M2 武田 拓也

日本学術会議協力学術研究団体である日本産業技術教育学会が主催した第13回技術教育創造の世界(大学生版)発明・工夫作品コンテストにおいて、「コーヒーの苦みを減らすマドラー」が特別賞を受賞。応募件数42件。学会長賞2件。特別賞6件。奨励賞11件。

機械工学科 4年生 佐藤 光

読売テレビ放送株式会社主催で行われる自作飛行機による飛行距離を競う大会で「滑空機部門」および「人カプロペラ機ディスタンス部門」の2部門に分けて競技が行われる鳥人間コンテストにて、津田沼航空研究会に所属し「滑空機部門」に出場。第40回大会で図面審査を通過し24チーム中1位、第41回大会で20チーム中1位(連続優勝)。

機械工学科 4年生 中居 拓哉

読売テレビ放送株式会社主催で行われる自作飛行機による飛行距離を競う大会で「滑空機部門」および「人カプロペラ機ディスタンス部門」の2部門に分けて競技が行われる鳥人間コンテストにて、津田沼航空研究会に所属し「滑空機部門」に出場。第40回大会で図面審査を通過し24チーム中1位、第41回大会で20チーム中1位(連続優勝)。

土木工学専攻 M2 青柳 佳祐

平成30年度土木学会全国大会第73回年次学術講演会において優秀講演者賞を受賞。発表件数3525件、受賞者292名。

土木工学専攻 M2 中村 聖馬

平成30年度土木学会全国大会第73回年次学術講演会において優秀講演者賞を受賞。発表件数3525件、受賞者292名。

建築工学専攻 M2 小林 航也

●全国で建築を学ぶ学生の卒業設計作品を一堂に集め、公開審査によって日本を決める大会であるせんだいデザインリーグ(卒業設計日本一決定戦)2017 100選において、30位。応募者数500名以上。受賞者数100名。  
●長谷工コーポレーション主催の全国学生設計競技である第10回長谷工住まいのデザインコンペティションにおいて、テーマ「日本の集合住宅」が佳作(上位19選)。応募者数166名、受賞者数19名。  
●大東建託主催の全国設計競技である第5回大東建託賃貸住宅コンペティションにおいて、テーマ「進化する賃貸住宅」が入選(上位11選)。応募者数321名、受賞者数22名。  
●20組の審査員一人ひとりが金賞・銀賞・銅賞を選定する国際建築設計コンペティションであるキルコス国際建築設計コンペティション2016において、倉方俊輔賞(金賞)、403architecture賞(銅賞)。応募者数300名。受賞者数60名。  
●公益財団法人日本賃貸住宅管理協会主催の全国学生設計競技である第6回JPM学生コンテストにおいて、テーマ「賃貸住宅をもっと自由に」が入選。受賞者数7名。

建築工学専攻 M2 柴田 知実

2018年度日本建築学会大会学術講演会構造部門(鋼コンクリート合成構造)において、論文タイトル「CFT柱の変形能力に関する基礎的研究 その2 限界部材角の定義による検討」が若手優秀発表賞受賞。応募者数54名。受賞者数6名。

建築工学専攻 M2 戸倉 美咲

2017年度第88回日本建築学会関東支部研究発表会材料施工部門において、優秀研究報告集選出。発表総数345件。優秀研究報告集選出件数55件。

建築工学専攻 M2 波辺 美沙子

2018年度日本建築学会大会(東北)学術発表建築計画委員会において、「戸建住宅における中間領域の分類に関する研究」が若手優秀発表賞を受賞。応募者数414名。受賞者数45名。

建築工学科 4年生 金沢 萌

●第6回大東建託賃貸住宅コンペ「既存価値を上げる賃貸住宅—豊島区編—」において、「ニブンノイチ改築—繋がる家たち—」が学生特別賞受賞。応募総数503作品。受賞数11作品(最優秀1作品、優秀賞2作品、佳作4作品、学生特別賞4作品)。  
●第9回JIA テクスチャレンジ設計コンペ「冬の光と過ごす空間」において、「長い夜のほのあかり」が最優秀賞受賞。応募総数92作品。受賞数9作品(最優秀賞1作品、優秀賞2作品、入選6作品)。

建築工学科 4年生 小山 佳織

●第4回学生建築デザインコンペ 未来のとびらコンテスト2018「ずっといたくなる住まい」—未来がアル家—において、「家から出てもわたし、まだはだし—住居を繋ぐ、裸足の共有スペース—」が最優秀賞受賞。応募総数80作品。受賞数7作品(最優秀2作品、優秀賞2作品、特別賞3作品)。  
●建築新人戦2017 100選において、100作品/最優秀新人賞8作品。応募総数902作品。  
●2018年度支部共通事業日本建築学会設計競技において、テーマ「住宅に住む、そしてそこで稼ぐ」がタジマ奨励賞&北陸支部入選。応募総数282作品。受賞数70作品。  
●第16回「住宅課題賞2016」(建築系大学住宅課題優秀作品展)において、入選。応募総数37大学48学科全48作品。受賞数48作品/優秀賞3作品、審査員賞5作品。  
●2018第5回都市まちづくりコンクールにおいて、テーマ「混」が入選。応募総数106作品。受賞数69作品。

建築工学科 4年生 西 雅仁

第6回大東建託賃貸住宅コンペ「既存価値を上げる賃貸住宅—豊島区編—」において、「ニブンノイチ改築—繋がる家たち—」が学生特別賞受賞。応募総数503作品。受賞数11作品(最優秀1作品、優秀賞2作品、佳作4作品、学生特別賞4作品)。

建築工学科 4年生 野中 俊彦

第6回大東建託賃貸住宅コンペ「既存価値を上げる賃貸住宅—豊島区編—」において、「ニブンノイチ改築—繋がる家たち—」が学生特別賞受賞。応募総数503作品。受賞数11作品(最優秀1作品、優秀賞2作品、佳作4作品、学生特別賞4作品)。

建築工学科 4年生 渡邊 健太郎

●第4回学生建築デザインコンペ 未来のとびらコンテスト2018において、テーマ「ずっといたくなる住まい」—未来がアル家—が最優秀賞。応募総数80作品。受賞数7作品(最優秀2作品、優秀賞2作品、特別賞3作品)。  
●2018年度支部共通事業日本建築学会設計競技において、テーマ「住宅に住む、そしてそこで稼ぐ」がタジマ奨励賞&北陸支部入選。応募総数282作品。受賞数70作品。  
●第17回「住宅課題賞2017」(建築系大学住宅課題優秀作品展)において、入選。応募総数37大学48学科全48作品。受賞数48作品。

応用分子化学専攻 M2 長嶋 恭介

2018年3月8日(木)から10日(金)にかけて東京都墨田区にある「たばこと塩の博物館」で開催された日本海水学会若手会主催の第9回学生研究発表会において、「高速液体クロマトグラフィーを用いるタンパク質凝集体の分別測定に関する研究」の題目で口頭並びにポスター発表を行い、優秀賞を獲得。発表件数(口頭およびポスター発表)58件。優秀賞4件。奨励賞2件。

応用分子化学専攻 M2 藤田 拳人

2018年5月25日・26日に開催した分離技術会2018年会において、「313 Kにおけるビヘラジン水溶液のCO<sub>2</sub>吸収に伴う溶液物性の变化」の題目で、相平衡・物性・分析技術部門の学生賞(ポスター賞)を受賞。応募者9件、受賞者1件。

応用分子化学専攻 M2 前田 若奈

学術会議に登録されている学会である、分離技術会年会2018が2018年5月25日・26日に日本大学生産工学部39号館で開催され、「101.3 kPaにおける2-Methyl-2-ethoxypropane (1) + Ethanol (2) + 2-Methyl-2-propanol (3)系の気液平衡測定と推算」の題目で発表、企業が選ぶ奨励賞(東洋エンジニアリング賞)を受賞。応募者84件、受賞者5件。

応用分子化学科 4年生 大津 涼

2018年10月25日(木)から26日(金)の会期で開催された、第5回海水・生活・化学連携シンポジウム(石巻専修大学にて開催)において、「痛風発症の遅延を目的とした尿酸ナトリウムの核発生および結晶成長の制御 —N<sub>2</sub>ファインバブルの導入効果—」と題して発表を行い、優秀ポスター賞受賞。応募者数ポスター発表26件。受賞者数4名。

マネジメント工学科 4年生 秋葉 僚太

2018年5月26日、日本経営システム学会第60回全国大会において、研究発表「電気自動車開発における関連研究分野とその連携に関する日米欧の比較研究」を行い、学生研究発表優秀賞。発表件数58名(国内外の大学・大学院生)。全体表彰者3名。

創生デザイン学科 4年生 西澤 優里

読売テレビ放送株式会社主催で行われる自作飛行機による飛行距離を競う大会で「滑空機部門」および「人カプロペラ機ディスタンス部門」の2部門に分けて競技が行われる鳥人間コンテストにて、津田沼航空研究会に所属し「滑空機部門」に出場。第40回大会で図面審査を通過し24チーム中1位、第41回大会で20チーム中1位(連続優勝)。

創生デザイン学科 4年生 羽鳥 黎

読売テレビ放送株式会社主催で行われる自作飛行機による飛行距離を競う大会で「滑空機部門」および「人カプロペラ機ディスタンス部門」の2部門に分けて競技が行われる鳥人間コンテストにて、津田沼航空研究会に所属し「滑空機部門」に出場。第40回大会で図面審査を通過し24チーム中1位、第41回大会で20チーム中1位(連続優勝)。

### 体育部門 (7名)

ソフトテニス部 (6名)

土木工学科 4年生 諸岡 隼貴

平成28年度日本大学体育大会ソフトテニス競技会団体優勝。

建築工学科 4年生 秋山 拓巳

平成28年度日本大学体育大会ソフトテニス競技会団体優勝。

建築工学科 4年生 緒方 裕介

平成28年度日本大学体育大会ソフトテニス競技会団体優勝。

応用分子化学科 4年生 岡野 宏基

平成28年度日本大学体育大会ソフトテニス競技会団体優勝。

数理情報工学科 4年生 須田 彪太

平成28年度日本大学体育大会ソフトテニス競技会団体優勝。

環境安全工学科 4年生 宮木 舜平

平成28年度日本大学体育大会ソフトテニス競技会団体優勝。

櫻工ラグビー部 (1名)

数理情報工学科 4年生 利岡 優太郎

平成28年度春季に開催された関東ラグビーフットボール協会主催関東理工系リーグ二部において優勝。

### 功労部門 (2名)

桜泉祭 (1名)

マネジメント工学科 4年生 小泉 来人

平成29年度第26回桜泉祭実行委員会委員長。

学生FD活動推進プロジェクト (1名)

応用分子化学科 4年生 坂本 裕菜

平成30年度学生FD活動推進プロジェクト学生スタッフリーダー。

平成29年度学生FD活動推進プロジェクト学生スタッフサブリーダー。



第11回 風力発電コンペ WINCOM2018

平成 30 年 11 月 4 日 (日)、津田沼校舎 37 号館 8 階にて第 11 回風力発電コンペ WINCOM2018 が開催されました。今年度は過去最高となる 40 チームに参加いただき、大盛況のうちに無事終わることができました。本学部の学部生・院生も含めた参加者の皆様どうもありがとうございました。受賞されたチームは以下の通りです (敬称略)。尚、今回より「日本風力エネルギー学会特別賞」は「日本風力エネルギー学会 長井浩記念賞」となりました。

【発電量部門】

中学・高校の部

- 最優秀賞 システム名称「Brand New Wind 2018」  
足利大学附属高等学校  
指導教員：西牧 宏之／代表者：今井 颯人
- 優秀賞 システム名称「SHIMOFUSA Wind-power 2018 type H」  
千葉県立下総高等学校  
指導教員：中西 浩明／代表者：眞野 碧海
- 優秀賞 システム名称「MASA OK ROCK」  
埼玉県立久喜工業高等学校  
指導教員：宮崎 達夫／代表者：窪田 颯
- アイデア賞 システム名称「たまごん3号」  
山形県立山形工業高等学  
指導教員：吉田 幸宏／代表者：水上 優希
- デザイン賞 システム名称「チャプンチェ」  
埼玉県蕨市立第一中学校  
指導教員：金久保 雅一／代表者：西野 美海
- デザイン賞 システム名称「Tulip♡」  
山形県立山形工業高等学校  
指導教員：吉田 幸宏／代表者：佐藤 麗水



日本大学生産工学部校友会賞  
システム名称「館総の風力発電機 (垂直)」  
千葉県立館山総合高等学校  
指導教員：丸山 哲央／代表者：曾我辺 祐輝

オープン参加

- 優秀賞 システム名称「冠鷲」  
日本大学大学院 生産工学研究科 代表者：田宮 拓朗
- アイデア賞 システム名称「CROSS HERO」チャレン館一  
代表者：齊藤 誠
- 日本風力エネルギー学会 長井浩記念賞  
システム名称「YAMAKO-T-2018」  
山形県立山形工業高等学校 吉田 幸宏

※風力発電コンペは、生産工学部校友会から支援金を受けております。

2019 年度キャンパスガイド 表紙デザインコンペが 開催されました。



2019 年度版生産工学部キャンパスガイド表紙デザインの募集が、平成 30 年 10 月 15 日 (月) から行われました。応募作品は 11 月 1 日 (木) から 11 月 4 日 (日) まで 39 号館 1 階ギャラリーに展示され、11 月 3 日 (土) に公開審査が行われました。応募作品 38 作品の中から、最優秀賞に建築工学科 4 年の野中俊彦さんの作品が選出され、2019 年度のキャンパスガイドの表紙として採用されました。また、下記の皆さんが各賞を受賞されました。

| 受賞名  | 作品名           | 製作者   | 所属学科 (専攻)・学年 |
|------|---------------|-------|--------------|
| 最優秀賞 | 学科間を縁で繋げる CIT | 野中 俊彦 | 建築工学科 4 年    |
| 優秀賞  | 手が学び、切り開く     | 井手 優汰 | 建築工学専攻 2 年   |
| 佳作   | 新時代を生産工から     | 涌井 優  | 電気電子工学科 4 年  |
| 〃    | 輪るメリーゴーランド    | 齋藤 啓太 | 創生デザイン学科 4 年 |
| 〃    | 切符            | 菊池 勇人 | 創生デザイン学科 3 年 |
| 〃    | 9羽の鳥          | 鈴木 葉奈 | 建築工学科 4 年    |
| 〃    | 青春桜花          | 高橋 朋  | 建築工学科 3 年    |
| 〃    | 深海            | 鈴木 友理 | 創生デザイン学科 4 年 |

| 受賞名  | 作品名           | 製作者    | 所属学科 (専攻)・学年 |
|------|---------------|--------|--------------|
| 校友会賞 | 大学生生活必需品      | 鈴木 風太  | 創生デザイン学科 4 年 |
| 〃    | 世界を広げよう       | 杉浦 友崇  | 創生デザイン学科 4 年 |
| 〃    | とびたて          | 鈴木 紀乃  | 創生デザイン学科 1 年 |
| 〃    | 未来を見る EYE     | 岡田 七海  | 創生デザイン学科 3 年 |
| 〃    | て             | 松枝 朝   | 建築工学専攻 2 年   |
| 〃    | 130 年のその先へ。   | 大沼 謙太郎 | 建築工学専攻 1 年   |
| 〃    | 円と緑の桜         | 佐藤 幸峰  | 建築工学専攻 1 年   |
| 〃    | キャンパスガイド 2019 | 高野 真実  | 建築工学専攻 1 年   |
| 〃    | 生産工学が世界を支える   | 関 千穂子  | 建築工学専攻 1 年   |
| 〃    | かざぐるま         | 井出 綾香  | 建築工学専攻 1 年   |
| 〃    | 日の出           | 門田 衛   | 創生デザイン学科 4 年 |
| 〃    | 人型色           | 広瀬 健次郎 | 創生デザイン学科 4 年 |
| 〃    | はじまり          | 西澤 優里  | 創生デザイン学科 4 年 |
| 〃    | 煌             | 春木 政人  | 創生デザイン学科 4 年 |
| 〃    | 彩色            | 望月 幸一  | 創生デザイン学科 4 年 |

※キャンパスガイド表紙デザインコンペは、生産工学部校友会から支援金を受けております。

2019 年度行事予定

| 行 事                         | 2~4 年次                                        | 1 年次                                                                                                 | 大学院                         | 備 考                               |
|-----------------------------|-----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|-----------------------------------|
| 開 講 式                       |                                               | 4 月 1 日 (月)                                                                                          | 4 月 1 日 (月)                 |                                   |
| 前 期 ガ イ ダ ン ス               | 4 月 1 日 (月) ~ 6 日 (土)<br>※学科・学年によって、日程が異なります。 | 4 月 1 日 (月) ~ 6 日 (土)                                                                                | 4 月 1 日 (月)                 |                                   |
| 入 学 式                       |                                               | 4 月 8 日 (月)                                                                                          |                             | 日本武道館                             |
| 学 外 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン       |                                               | 4 月 2 日 (火)・3 日 (水) (電気・環境・創生)<br>4 月 3 日 (水)・4 日 (木) (機械・土木・建築・MA・数情)<br>4 月 20 日 (土)・21 日 (日) (応化) |                             |                                   |
| 定 期 健 康 診 断                 | 4 月 9 日 (火) ~ 12 日 (金)                        |                                                                                                      |                             |                                   |
| 父 母 面 談 会 ( 春 季 )           | 4 月 13 日 (土) (2 年生以上対象)                       |                                                                                                      |                             |                                   |
| 大 学 院 説 明 会 ( 春 季 )         | 4 月 13 日 (土)                                  |                                                                                                      |                             |                                   |
| ス ポ ー ツ 大 会                 | 5 月 18 日 (土)                                  |                                                                                                      |                             |                                   |
| 女子中高生のためのキャンパスカフェ           | 6 月 23 日 (日)                                  |                                                                                                      |                             |                                   |
| 大 学 院 一 般 入 学 試 験 (第 1 期)   |                                               |                                                                                                      | 7 月 6 日 (土)                 |                                   |
| 学内・学内特別、海外提携校、各推薦入学試験       |                                               |                                                                                                      |                             |                                   |
| オ ー プ ン キ ャ ン パ ス           | 7 月 14 日 (日)、8 月 3 日 (土)、8 月 4 日 (日)          |                                                                                                      |                             |                                   |
| 補 講                         | 土曜日適宜実施                                       |                                                                                                      |                             | スポーツ大会等<br>他の行事のある日を除く            |
| 夏 季 休 業                     | 8 月 5 日 (月) ~ 9 月 11 日 (水)                    | 8 月 5 日 (月) ~ 9 月 9 日 (月)                                                                            | 8 月 5 日 (月) ~ 9 月 12 日 (木)  |                                   |
| 前 期 追 試 験                   | 9 月 4 日 (水)、5 日 (木)                           |                                                                                                      |                             |                                   |
| AO 入学試験・編入学試験 (推薦・短大)       | 9 月 7 日 (土)                                   |                                                                                                      |                             |                                   |
| 後 期 ガ イ ダ ン ス               | 9 月 12 日 (木)、13 日 (金)                         | 9 月 10 日 (火)、11 日 (水)、12 日 (木)<br>[12 日 (木) は応化のみ]                                                   | 9 月 13 日 (金)                |                                   |
| 父母面談会 (秋季)・保護者向け就職説明会       | 9 月 21 日 (土) 津田沼キャンパス                         |                                                                                                      |                             | 10 月 12 日 (土) 地方別実施               |
| 大 学 院 説 明 会 ( 秋 季 )         | 9 月 21 日 (土) 津田沼キャンパス                         |                                                                                                      |                             |                                   |
| 卒業式・修了式・学位記伝達式 (9 月)        | 9 月 26 日 (木)                                  |                                                                                                      | 9 月 26 日 (木)                |                                   |
| 創 立 記 念 日                   | 10 月 4 日 (金)                                  |                                                                                                      |                             | 休 校                               |
| 編 入 学 試 験 (一般、2 年次・3 年次)    | 10 月 5 日 (土)                                  |                                                                                                      |                             |                                   |
| 転 部 試 験 ( 2 年 次 )           | 10 月 5 日 (土)                                  |                                                                                                      |                             |                                   |
| 外国人留学生入学試験 (第 1 期)          | 10 月 5 日 (土)                                  |                                                                                                      |                             |                                   |
| 帰 国 生 入 学 試 験               | 10 月 5 日 (土)                                  |                                                                                                      |                             |                                   |
| 校 友 子 女 入 学 試 験             | 10 月 5 日 (土)                                  |                                                                                                      |                             |                                   |
| 大学院外国人留学生入学試験 (第 1 期)       |                                               |                                                                                                      | 10 月 5 日 (土)                |                                   |
| 学 部 祭 ( 桜 泉 祭 )             | 11 月 3 日 (日)、4 日 (月)                          |                                                                                                      |                             | 11 / 2 (土) 準備日・<br>11 / 5 (火) 片付日 |
| 風 力 発 電 コ ン ペ (WINCOM2019)  | 11 月 3 日 (日)                                  |                                                                                                      |                             |                                   |
| 博 士 論 文 提 出 期 日             |                                               |                                                                                                      | 11 月 15 日 (金)               |                                   |
| 指 定 校 制 推 薦 入 学 試 験         | 11 月 16 日 (土)                                 |                                                                                                      |                             |                                   |
| 提 携 校 推 薦 入 学 試 験           | 11 月 16 日 (土)                                 |                                                                                                      |                             |                                   |
| 日本大学競技部推薦入学試験               | 11 月 16 日 (土)                                 |                                                                                                      |                             |                                   |
| トップアスリート推薦入学試験              | 11 月 16 日 (土)                                 |                                                                                                      |                             |                                   |
| 付 属 高 等 学 校 等 推 薦 入 学 試 験   | 11 月 17 日 (日)                                 |                                                                                                      |                             |                                   |
| 公 募 制 推 薦 入 学 試 験           | 11 月 17 日 (日)                                 |                                                                                                      |                             |                                   |
| 事 業 継 承 者 等 推 薦 入 学 試 験     | 11 月 17 日 (日)                                 |                                                                                                      |                             |                                   |
| 学 術 講 演 会                   | 12 月 7 日 (土)                                  |                                                                                                      |                             |                                   |
| 一 般 入 試 対 策 講 座             | 12 月 8 日 (日)                                  |                                                                                                      |                             |                                   |
| 冬 季 休 業                     | 12 月 24 日 (火) ~ 1 月 9 日 (木)                   |                                                                                                      |                             |                                   |
| 補 講                         | 土曜日適宜実施                                       |                                                                                                      |                             | 入学試験、学部祭、学術講演会等<br>他の行事のある日を除く    |
| 修 士 論 文 概 要 (初 稿) 提 出 期 日   |                                               |                                                                                                      | 1 月 17 日 (金)                |                                   |
| 大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験         | 1 月 18 日 (土)、19 日 (日)                         |                                                                                                      |                             |                                   |
| 一 般 入 学 試 験                 | N 1 方 式<br>A 1 方 式<br>A 2 方 式<br>A 3 方 式      | 2 月 1 日 (土)<br>2 月 2 日 (日)<br>2 月 9 日 (日)<br>2 月 19 日 (水)                                            |                             |                                   |
| 後 期 追 試 験                   | 2 月 13 日 (木)、14 日 (金)                         |                                                                                                      |                             |                                   |
| 修 士 論 文 提 出 期 日             |                                               |                                                                                                      | 2 月 20 日 (木)                |                                   |
| 転 科 試 験 ( 2 年 次 )           | 2 月 26 日 (水)                                  |                                                                                                      |                             |                                   |
| 外国人留学生入学試験 (第 2 期)          | 2 月 29 日 (土)                                  |                                                                                                      |                             |                                   |
| 大学院外国人留学生入学試験 (第 2 期)       |                                               |                                                                                                      | 2 月 29 日 (土)                |                                   |
| 大 学 院 一 般 入 学 試 験 (第 2 期)   |                                               |                                                                                                      | 2 月 29 日 (土)                |                                   |
| 就 職 セ ミ ナ ー                 | 3 月 4 日 (水)、5 日 (木)、6 日 (金)                   |                                                                                                      | 3 月 4 日 (水)、5 日 (木)、6 日 (金) |                                   |
| 卒 業 式 ・ 修 了 式 ・ 学 位 記 伝 達 式 | 3 月 25 日 (水)                                  |                                                                                                      | 3 月 25 日 (水)                |                                   |

個人情報の取扱い告知文

入学手続時及び在学中に収集する学生本人及び保証人の氏名、住所、生年月日及びその他の個人情報は、学籍・成績管理、教育、学生生活支援、学費の案内、図書館利用、就職支援等及びこれらの業務に付随する学生及び保証人への連絡・通知・掲示等、本大学の教育事業に必要な範囲で利用します。また、これらの業務の一部を業者に委託する場合があります。この場合、当該業務の委託を受けた業者は、上記利用目的の達成に必要な範囲を超えて個人情報を利用することはありません。なお、本大学では、学生への教育・指導をより適切に行うため、保証人に対して学生の学業成績及び出席状況等の開示並びに履修状況等についての相談を行う場合があります。

(問合せ先) 生産工学部教務課・学生課